平成２５年度　事業報告書

自　平成２５年４月　１日
至　平成２６年３月３１日

一般社団法人　日本食品機械工業会

平成２５年度　一般概況報告

１．平成２５年度の特徴

平成２５年の我が国経済は、政治・経済の混乱が収拾に向かう動きのなかで、ようやくデフレ脱却への期待がみえた。我が国では平成１３年３月に、政府により戦後初のデフレが宣言された。その後、平成１８年６月に一旦は解除されたが、リーマンショック後の平成２１年に再びデフレが宣言されて以来、長期間に亘りデフレ状態にあった。

かかる状況下で平成２４年末に現政権が誕生し、大胆な経済政策が打ち出されたことにより、経済再生への期待が高まった。

この期待を受けて、低迷していた株価は上昇し、懸念材料だった為替は円安基調へ転換、個人消費や企業の業況判断も上方修正された。年末の１２月２４日発表の月例報告では、物価判断から「デフレ」の文字が削除され、「デフレ脱却」は宣言されなかったものの、デフレ脱却への出口がみえた。

円安による資源インフレへの懸念や平成２６年４月からの消費税率引き上げによる景気回復への不安の声も聞かれるが、IMFは平成２５年は1.7%成長と算出し、これら不安材料は財政刺激策で相殺されるとしている。OECDも平成２５年は1.5%成長と算出しており、これらの評価からも平成２５年を機に我が国経済は回復基調に乗りつつあるといえる。

一方で諸外国に目を向けて見ると、財政措置への政府・議会対立から政府機関の運営停止に追い込まれた米国はいまだ財政危機から抜け出せておらず、欧州もソブリン危機からの脱出の目処が立たない状況であった。他方で、世界経済の牽引役として期待されてきた中国を含む新興諸国も経済的に極めて不安定な状態にあった。グローバル化の急速な進展により、我が国の経済状況は強く諸外国とリンクする状況にあり、世界的な不況が常に我が国の経済回復の懸念となった。

２．平成２５年の販売動向

こうした経済環境下で、食品機械産業のユーザーである食品業界では、継続する低価格競争の激化に加え、円安や原材料価格の上昇によりコスト増の傾向があったが、新商品投入等に向けた若干の設備投資がみられた。

これをうけて、平成２５年の食品機械の販売額は442,832百万円（対前年比　1.0%増）であった。

機種別の販売額と理由は以下の通り。

精米麦機械14,553百万円（1.3%増　対前年比　以下同）、ユーザーに若干の施設増強があったことと、農家向け機械需要があったためと思われる。製粉機械12,331百万円（1.7%増）、大手ユーザーの一部に設備投資があったことと、米粉加工を中心に若干の設備投資が継続していることとが要因と思われる。製めん機械10,711百万円（1.5%減）、商品の低価格競争が続き、設備投資が控えられたためと思われる。製パン・製菓機械112,834百万円（0.9%増）、大手ユーザーに設備投資があったことと、輸出が堅調に推移したためと思われる。

醸造用機械13,714百万円（0.8%減）、設備投資がみられずメンテナンス需要に止まったためと思われる。乳製品加工機械53,464百万円（2.1%増）、大手ユーザーに設備投資があったことと、一部震災復興への対応があったためと思われる。飲料加工機械21,972百万円（1.9%増）、コンビニエンスストア等PB商品を中心に新製品の市場投入にあわせた設備投資があったためと思われる。肉類加工機械18,113百万円（2.3%増）、食肉関連の消費が堅調であり、スーパーマーケットや量販店などの加工センター等で設備投資があったためと思われる。水産加工機械16,292百万円（2.0%増）、震災復旧への対応があったことと輸出増が要因となったと思われる。その他の食品機械168,848百万円（0.5%増）、ファミリーレストラン等外食産業の新規出店が堅調に推移しているためと思われる。

3．平成２５年の輸出動向

財務省の通関統計によると平成２５年の輸出額は34,335百万円（対前年比　5.4%増）であった。

地域別には、中近東向け輸出546百万円（366.9%）、ロシア・東欧向け輸出786百万円（44.4%増）とそれぞれ大幅増を記録した。これら２地域は平成２４年にはそれぞれ69.7%減、23.5%減と大きく減少を記録した地域であった。また、大洋州向け輸出518百万円（22.9%増）と前年の56.8%増に続き増加を記録し、また昨年漸く増加に転じた北米向け輸出3,439百万円（19.7%増）と２年連続で増加を記録した。また我が国の主要な輸出市場であるアジア向け輸出は26,135百万円（5.9%増）と堅調な増加を記録した。

他方で、中南米向け輸出1,002百万円（41.2%減）とアフリカ向け輸出342百万円（25.9%減）が２年続けて減少を記録した。これは平成２３年に各々300%以上の増加をみせたことが影響しているものと推定される。また、西欧向け輸出1,568百万円（１０%減）と近年減少傾向をみせている。

国別には輸出額の多い順に、中国9,378百万円（1.0%減）、韓国3,710百万円（15.6%減）、インドネシア3,595百万円（211.9%）、タイ3,360百万円（19.8%減）、アメリカ3,334百万円（23.6%増）であった。

機種別には、増加率が高い順に、水産加工機械1,916百万円（78.0%増）、醸造用機械1,774百万円（40.7%増）、製パン製菓機械10,885百万円（32.2%増）、製粉機械558百万円（19.1%増）、その他食品機械6,789百万円（15.0%増）であった。

4．平成２５年の輸入動向

財務省の通関統計によると平成２５年の輸入額は27,971百万円（対前年比　31.7%増）であった。

地域別には、前年に比し増加した輸入地域は、ロシア・東欧234百万円（204.2%）、中南米１３百万円（236.0%）と大幅増を記録し、西欧20,685百万円（40.0%増）、北米3,311百万円（22.7%増）、アフリカ４百万円（19.7%増）、アジア3,626百万円（18.7%増）が増加を記録した。

他方で、大洋州からの輸入は100百万円（82.8%減）と大幅減を記録したが、これは平成

２４年に前年比782.4%と大幅増を記録したことの影響が大きいものと思われる。

国別には輸入額の多い順に、ドイツ7,834百万円（35.2%増)、イタリア6,582百万円（84.2%増)、スイス2,751百万円（25.5%増)、アメリカ2,615百万円（7.9%増)、中国2,109百万円（17.4%増）であった。

機種別には、前年に比し増加した機種は、増加率の高い順に、醸造用機械127百万円（10,672.7%）と大幅に増加を記録し、製粉機械1,114百万円（201.2%）、肉類加工機械3,488百万円（57.3%増）、飲料加工機械14,477百万円（37.5%増）、製パン製菓機械4,474百万円（17.3%増）、その他食品機械2,930百万円（3.2%増）であった。

平成２５年度　事　業　報　告

自　平成２５年　４月　１日
至　平成２６年　３月３１日

Ⅰ．平成２５年度事業計画における重点事項

１．食品機械の安全・衛生化の推進

食品機械には、機械作業者に対する“機械安全”だけでなく、一般消費者が飲食する食品の“衛生安全”を考慮した設計が要求される。中でも機械の「衛生設計」は、国際的な食品安全に関する要求を定める“食品衛生一般原則”にも規定される主要要求である。これらのような構造を備えた食品機械の設計は、社会的責務となっている。その責務を果たすため、安全に関する国際規格と整合する食品機械JISの改正作業、当該JISの適切性を裏付けるための科学的検証、及びこれらの規格を使いこなす設計者の育成を支援する研修事業の実施等に取り組んだ。

２．FOOMA JAPAN 2013（国際食品工業展）の開催

FOOMA JAPAN 2013（国際食品工業展）では、開催テーマに「集う、出会う。食の未来が広がる。」をかかげ、安全・安心への取り組み、環境対策等多様な課題を解決する最先端テクノロジー・製品・サービスを発信し、また、活力ある情報交流、ビジネス発展の場を提供することにより、食品製造・加工技術のより一層の進歩、向上に努めた。

３．産学技術交流の促進と関連技術情報の普及

食品機械分野の総合的な発展と技術力向上を図り、国民の豊かで安心できる食生活の向上に資するため、食品産業関係者のみならず多くの来場者を迎える一大情報拠点FOOMA JAPANにおいて、研究機関による発表の場「アカデミックプラザ」の運営、講演会の開催、研究機関との産学交流を積極的に推進し、食品、食品製造装置及び関連機器に関する技術、及び情報の交流と普及に努めた。

また、関係学術団体等と連携し各種シンポジウムや、食に関わる最新技術情報等の発信の場を設けることにより、関係業界に関する科学技術の振興及び国民生活の食の安全・衛生に寄与することに努めた。

４．食品及び食品機械の安全・衛生等の情報提供

機関誌「ふーま」（季刊・年４回）を発行した。本誌は、会員企業、食品産業関連企業、研究機関等へ幅広く配布したほか、FOOMA JAPAN会場内でも無料配布した。食品及び食品機械、食の安全・衛生、食育、当工業会運営活動等の情報を様々な角度から広報することにより、国民の食生活向上に寄与した。

また、我が国の食品機械技術のさらなる高度化に資するため、食品機械専門の技術誌「FOOMA技術ジャーナル」を発行し、会員企業及び食品産業関連企業に対し、広く配布した。」

5．国際化への対応

我が国の食品加工産業が海外進出し、現地の食生活向上に的確に資するため、海外政府機関及び団体等との交流を促進し、海外の食文化、加工食品動向等を調査した。

6．第１４期FOOMAアカデミーの開講

国民の豊かで安心できる食生活の向上に資する、食品及び食品機械分野への従事者を対象とした第１４期FOOMAアカデミーを企画・開講した。

Ⅱ．事 業 活 動

１．食品機械の安全・衛生化に関する調査研究及び普及

食品機械の安全・衛生化を推進し、もって、我が国食品関連産業の振興及び労働安全、食の安全確保に寄与するため、以下の事業に取り組んだ。

(1) 食品機械の安全・衛生化の推進

食品機械の安全・衛生関連法令及び国際的な規格要求に対応し、我が国における食の安全確保に向けた活動の一翼を担うため「安全・衛生企画委員会」は次の調査・研究事業に取り組んだ。

① 海外安全関連情報調査

安全・衛生分野に関する近年のグローバルハーモナイズの加速に伴い、アジア各国における食品衛生関連法規の整備が進んでいる。このような流れの一環として食品加工機械に使用する材料に関する法令が制定されるようになった。このような規制に対応するため「安全・衛生企画委員会」は、アジア地域の中でも当該産業界に対する影響が大きい台湾及びタイに焦点を絞り、材料規制法令に関する調査を行った。なお、これら調査結果は報告書に取りまとめ、会員企業へ配布した。また、国際規格・基準のベースとなる欧米の衛生安全関連技術文書を入手・整理し、「JIS改正委員会」との情報共有を行った。

② 欧米規格研究機関との連携

「安全・衛生企画委員会」は「EHEDG JAPAN」と連携し、EHEDGガイドラインDoc.１４、Doc.２３－１、Doc.３２、Doc.３５、Doc.３７の翻訳を行った。

(2) 食品機械に関するJISの科学的検証と規格の改正

機械製品の国際間流通の条件として、機械類の安全性を定めた国際規格等への整合をWTOは定めている。自由貿易における国際合意事項である国際規格に基づく一層の安全・衛生化に資するため、次の事業に取り組んだ。

① 食品機械に関するJIS規格の改正

「JIS改正委員会」では、食品機械JISのISO/IECへの整合を維持するため、次の事業に取り組んだ。

ａ）製粉機械JISの改正

「製粉機械JIS改正ワーキンググループ」は、平成２４年度に製粉機械JIS（JIS B 9655）の改正原案を取りまとめた。２５年度には、この改正原案を業界内に配布し、広く意見を求め、寄せられた意見を参考に改正原案のFinal Draft（FD）を取りまとめた。その後さらに「規格調整分科会」及び「産業機械技術専門委員会」における審査を受け、それぞれのコメントに対する修正作業に取り組んだ。

ｂ）精米麦機械JISに定める機種の選定、及びリスクアセスメントの実施

精米麦機械JIS（JIS B 9658）の改正原案を作成するため、「精米麦機械JIS改正ワーキンググループ」を「JIS改正委員会」内に設置し、JISに定める機種の選定を行った。また、選定した全ての機種に対するリスクアセスメントを実施し、全ての危険源に対し“リスクレベルの見積り”及び“リスク低減方策の検討”を行った。

ｃ）精米麦機械JISの関連国際規格への整合化

タイプＣ規格に該当する精米麦機械JISは、タイプＢ規格が定める技術要求へ整合する必要がある。当該JISの保護方策として採用する“保護距離”“最小隙間”“停止時間”“制御系のカテゴリ”等について、関連規格との整合化を図った。

ｄ）安全性レベルの評価

当該JISが輸入障壁とならないよう、精米麦機械に関連する欧州規格の残留リスクレベルをベンチマークに定め、改正JISが定める安全性レベルの適切性評価を行った。

ｅ）精米麦機械JISの取りまとめ

規格の様式、用語、表現はJIS Z 8031、規格構成はISOガイド７８に基づかなければならない。当該要求事項に基づき、精米麦機械JIS改正原案の取りまとめを行った。

ｆ）水産加工機械JIS改正に向けた準備及び調査

平成２６年度に改正作業に取り組む“水産加工機械JIS”に関連する海外規格、及び改正作業協力依頼先等の調査を行った。

②　密閉型食品加工機械の洗浄性評価基準に関する研究

機械の衛生性評価は検証試験によることを国際安全規格は定める。しかしこの洗浄性評価のための試験方法及び評価基準は各メーカーが定めることとなっており、国際安全規格及び食品機械JISは具体例を明示しない。そこで「安全・衛生企画委員会」は、「洗浄性評価試験サブグループ（サブグループ１）」を設置し、岡山県工業技術センターと共同で次の研究に取り組んだ。

ａ）標準汚れの選定

洗浄性を評価するには、多くの機械で利用可能で、なおかつ高い再現性を持つ汚染物質を探し出し、それを“標準汚れ”として定める必要がある。そこで代表的な

汚染物質である糖質、脂質、タンパク質、あるいはこれらの組合せを含めた多数のサンプルを製作し、“付着後の落ちやすさ”に対する評価試験を行った。その結果、カゼイン酸ナトリウムを中心とする混合物を“標準汚れ”と定め、組成を決定した。

ｂ）閉鎖系機械装置の洗浄性評価に関する各種パラメータの設定

前記“標準汚れ”を用いて、L/D値の異なるＴ字管を試作し、洗浄剤の組成、温度、流量、及び時間等に関する洗浄パラメータの特定に向けたデータ収集を行った。

③　フィンガーテスタの開発に関する研究

労働災害の中で、手指に受ける危害が最も多い。このような危害の“ひどさ”は、リスクを算出するための基本パラメータとして定義される。だが、危害を生み出す“衝撃力”とその結果である“ひどさ”の因果関係は世界的に明らかとなっていない。そこで「安全・衛生企画委員会」は、「フィンガーテスタ開発研究サブグループ（サブグループ２）」を設置し、国立大学法人　長岡技術科学大学と協力し、次の研究に取り組んだ。

ａ）フィンガーテスタ試作器の開発・製造

ピエゾ式ロードセルを用いた、フィンガーテスタ試作器の開発・製造を行った。作業者の個体差に対応できるよう、曲率半径の異なる測定部をアタッチメント式にする等の工夫を行った。

ｂ）フィンガーテスタの実用性評価

試験室における測定試験だけでなく、多数の機械が稼働する現場において、実用性を評価するための実機試験を複数行った。その結果、試作器１号は、電磁波イミュニティの影響を受けず、高い再現性を有し、実用に耐えうるとの評価結果を得た。

２．国内外の食品及び食品機械の技術に関する普及

国民の豊かで安全な食生活に必要な食品と食品機械の技術力向上のため、一大情報拠点FOOMA JAPANの機能を活用し、産学官連携で共同研究開発を実施し研究成果を発表するアカデミックプラザの開催や関係学術団体等と連携した各種シンポジウム、食に関する新技術を紹介する新技術普及特別企画等を行い、もって我が国産業の振興及び国民生活の食の安全及び衛生に寄与することを目的とし、以下の事業に取り組んだ。

(1)　アカデミックプラザ事業

技術委員会の企画、運営により、東京ビッグサイトガレリア通路付近において、国内外の大学・政府機関・研究所等の食品関連技術の成果発表の場としてアカデミックプラザを開催した。

食品関連科学技術の振興及び「国民の豊かで、安全な食生活」につながる研究成果の社会還元の一助とするため、アカデミックプラザで発表した研究者への参加費用補助制度や表彰制度を設け研究助成を行った。

今年度は海外１８研究室を含む７５研究室が参加し、ポスターセッション及び口頭発

表を行った。そのなかで「食の未来を創る付加価値向上技術」を特別テーマとした展示コーナーを設置した。また、今年度は「試食コーナー」を設けた。

さらには、参加研究室の研究内容を紹介した「研究発表要旨集」の配布を行う等、出展者・来場者に対して最新技術に関する情報提供を行った。

会期3日目夕刻にはアカデミックプラザ交流会を開催し、会員企業と研究者との産学交流を推進した。

また、同交流会では、FOOMA AP賞の発表を行い、下記4研究室に各賞を授与、表彰式も行った。

① FOOMA AP賞 グランプリ

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所 食品工学研究領域 計測情報工学ユニット

東京大学 大学院 農学生命科学研究科 国際情報農学研究室

「高アミロース米のダイレクト糊化による食品の高付加価値化」

② FOOMA AP賞 準グランプリ

北海道大学 大学院 農学研究院 食品加工工学研究室

「美味しさはバランス感覚 ― 米のタンパク質含量とアミロース含量のバランスが食味評価に与える影響 ― 」

③ FOOMA AP賞

a）独立行政法人産業技術総合研究所 先進製造プロセス研究部門 トライボロジー研究グループ・表面機能デザイン研究グループ・加工基礎研究グループ

「水と機械の調和を目指して」

b）エルジェス大学 工学部 食品技術部門（トルコ）

「伝統的及び現代的手法の組合せによるトルコの保存処理された肉製品の加工開発：パスティルマの生産システム」

(2) 安全化・衛生化等の推進企画

① 日本食品工学会共催事業

日本食品工学会と連携し、平成25年6月11日（火）、東京ビッグサイト会議棟の特別会場において、日本食品工学会フォーラム2013を共催した。今年度のフォーラムは「食品製造における単位操作の温故知新～食品工学と産業との新たな結び付きを探る～」をテーマとして、食品工学分野における最近の研究成果や先進事例を紹介しながら幅広く討論する場を設け、今後の研究発展と成果の社会還元に努めた。

5名の講師による講演に186名の聴講者が集まった。

② 農業施設学会連携事業

農業施設学会と連携し、平成25年6月11日（火）、東京ビッグサイト会議棟の特別会場において開催する農業施設学会シンポジウムを後援した。今年度のシンポジウムは「農林水産物の6次産業化に向けての取り組み」をテーマとして、加工・流通

に必要な最近の技術開発や、消費拡大に向けた新商品の開発等の先進事例を紹介しながら幅広く討論する場を設け、今後の研究発展と成果の社会還元に努めた。

4名の講師による講演に104名の聴講者が集まった。

③ EHEDGセミナー

EHEDG JAPANとの共催で、平成25年6月12日（水）に東京ビッグサイト会議棟の特別会場において、EHEDG会長のKnuth Lorenzen氏を講師に迎え「ステンレス鋼－配管－の衛生的溶接（ドキュメント.9、35）」をテーマにセミナーを開催し、業界の安全・衛生化の向上に努めた。

セミナーには200名の聴講者が参加し、好評を博した。

④ AIB FOOMA特別講演会

AIB日本同窓会との共催で、平成25年6月12日（水）、東京ビッグサイト会議棟の特別会場において、「食品機械の衛生設計－食品メーカーと食品機械の効果的な取り組み－」をテーマに特別講演会を開催し、業界におけるより安全な食品の情報提供に努めた。

セミナーには301名の聴講者が参加し、大好評を博した。

⑤ 美味技術学会共催事業

美味技術学会と連携し、平成25年6月13日（木）、東京ビッグサイト会議棟の特別会場において、美味技術学会シンポジウムを共催した。今年度のシンポジウムは「日本発農産物の海外展開－美味技術に求められるもの－」をテーマに、海外市場を見据えた美味技術や加工販売戦略について、最近の研究成果・事例を紹介しながら幅広く討論する場を設け、今後の研究発展と成果の社会還元に努めた。

5名の講師による講演に202名の聴講者が集まった。

⑥ 農業機械学会共催事業

農業機械学会と連携し、平成25年6月14日（金）、東京ビッグサイト会議棟の特別会場において、フードテクノロジーフォーラムを共催した。今年度のフォーラムは「食の流通を変える！！安全・安心、環境、経済性を考慮した食品流通の新しい技術」をテーマとして、食品の流通にかかわる、「安全・安心」確保、低コスト化、高品質化、環境負荷低減等の新しい技術について、最近の研究成果や先進事例を紹介しながら幅広く討論する場を設け、今後の研究発展と成果の社会還元に努めた。

7名の講師による講演に174名の聴講者が集まった。

3．食品及び食品機械の安全・衛生等の情報提供

食品及び食品機械分野はもとより、生産者から消費者に至るまでのフードチェーンに関するあらゆる人に対して、食の安全及び食に関連する環境（省エネ・廃棄物・食育等）への配慮に関する情報提供をすることにより、国民意識の啓蒙を図り、もって我が国産業の振興及び国民生活の食の安全・衛生に寄与することを目的とし、以下の事業を行った。

(1) 機関誌「ふーま」の発行

機関誌「ふーま」117～120号（季刊・年4回）を発行した。本誌は、会員企業、食品産業関連企業、研究機関等へ幅広く配布したほか、FOOMA JAPAN会場内でも無料配布した。食品及び食品機械、食の安全・衛生、食育、当工業会運営活動等の情報を様々な角度から広報することにより、国民の食生活向上に寄与した。

(2) 「FOOMA技術ジャーナル」の発行

我が国食品機械技術のさらなる高度化に資するため、食品機械・装置、食品加工に関する最新技術情報・論文等を掲載したFOOMA技術ジャーナルの通巻１８号を平成２５年5月に、１９号を平成２６年２月にそれぞれ発行し、会員企業、食品産業関連企業へ広く配布した。またFOOMA JAPAN会場内で無料配布を行った。

4．国内外の食品及び食品機械に関する調査研究及び普及

国際的なネットワークの構築により、海外における食品製造現場へ食品機械を普及させ、これにより、安全で衛生的な食品生産並びに食品の普及により健全な食生活の発展を図るべく事業を企画、運営した。こうした事業は、我が国の食品製造技術の提供により実現することから、我が国固有の技術のイノベーションにつながり、もって我が国産業の振興及び国民生活の食の安全及び衛生にも寄与するものである。かかる目的と効果を実現するため、具体的には下記の事業に取り組んだ。

(1) 海外市場調査

海外市場への我が国食品並びに食品機械企業が進出するため、及び海外の食品産業に対する我が国食品機械産業の有効な協力方法を策定するための最新情報を、海外機関や日本等得振興機構等から収集した。また、日本貿易振興機構の協力を得、中小機械製造業の海外進出に焦点を充てた海外市場セミナーを下記の通り実施した。

開催日：平成２５年１２月１０日（火）１４：４０～１７：００
場　所：ホテルJALシティ田町ホテル　Ｂ１Ｆ「飛翔」
テーマ：「中小企業のための日本製機械の海外展開事情と輸出サポート体制」
講　師：① 合田 賢史 氏（日本貿易振興機 構国内コーディネーター）
② 岩田 知統 氏（日本貿易振興機構 機械・環境産業部機械・環境産業企画課長）

(2) 海外進出推進活動

外国政府機関や団体との交流の促進を通して、海外における食品製造現場の技術力向上、安全衛生的な製造技術の向上を図り、我が国産業の海外展開に際し有効なサポートを得るため、FOOMA JAPANにおいて国際交流ブース「グローバルスペース」を設置、運営した。当該スペースには、アメリカ合衆国大使館、トルコ共和国大使館等１９機関・団体の参加があった。

さらに、我が国産業の周知を図るとともに、今後の会員企業を中心とした我が国産業

の海外進出の基礎とすべく、下記の通り海外展示会にPRブースを出展した。また、出展の機会を捉え、当該展示会が会員企業にとって有効な展示会か否かを確認すべく国際委員２名を派遣し調査を行った。

① 香港Food Expo 2013
平成２５年８月１５日（木）～１７日（金）

② シンガポール Oishii Japan 2013
平成２５年１０月１７日（木）～１９日（日）

５．食品及び食品機械分野の人材育成

食品及び食品機械分野の従事者を対象に、技術及び経営管理に関する教育を行い、次代を担う人材を育成することにより、もって、我が国産業の振興及び国民生活の食の安全・衛生に寄与することを目的とする。この目的を果たすべく、以下の事業を実施した。

(1) FOOMAアカデミー

① 第１４期FOOMAアカデミーの実施
第１４期FOOMAアカデミーを以下の通り実施した。
開　　催：平成２６年２月４日（火）～７日（金）
会　　場：(一社)日本食品機械工業会　４階会議室
受講者数：２４名

② 第１５期FOOMAアカデミーの開催準備
第１５期FOOMAアカデミーの課目・運営方法につき検討を実施した。

６．食品機械産業振興基礎事業

長期的・総合的視点に立って、当工業会の事業活動の基盤強化と業界のさらなる発展に資するため諸策の検討を行った。

(1) 運営委員会活動（企画運営・総合調整）

① 理事会審議事項の調整
平成２４年度事業報告並びに決算報告及び公益目的支出計画実施報告、平成２５年度事業計画及び予算案、委員会功労者の推薦、理事会審議議題等の検討、調整を行った。

② 食品機械産業活性化支援事業の案内
経営革新を目指す企業を対象に独立行政法人中小企業基盤整備機構が実施している「専門家派遣事業」を会員企業が利用する際、当工業会が利用者負担の２／３を分担する「食品機械産業活性化支援事業」を実施することとし、７月に会員へ募集案内を行った。

(2) 青年部活動

① 青年部運営委員会の開催

青年部運営委員会を平成２５年（５月、７月、１０月、１２月）、平成２６年３月に開催し、次代の経営者・管理者の育成及び青年部会員の親睦を図ることを目的とした諸事業の企画・検討を行った。

また、FOOMA JAPANをはじめ当工業会事業に積極的に参画し、当工業会及び食品機械産業の発展に努めた。なお、３月末での青年部の登録者は８３社122名となった。

② 青年部経営勉強会 Young Executive Seminar (YES) we learn!

平成２５年度の青年部経営勉強会は、「ロジカルシンキング」「コミュニケーション」「発想法」「食品関連機械団体標準約款導入事例の紹介」をテーマとした内容の勉強会を企画した。毎回２５名程度参加があり好評を博した。

・第１回　平成２５年５月２０日（金）
テーマ：ロジカルシンキング
～相手を説得する為の「伝える力」を150%アップさせる～
講　師：田中 浩 氏（経営コンサルタント）

・第２回　平成２５年７月４日（木）
テーマ：発想法
～業務で活用できる発想力強化研修～
講　師：吉成 篤 氏（中小企業診断士・紹介営業トレーナー）

・第３回　平成２５年１０月２５日（金）
テーマ：コミュニケーション
～効果的な伝え方を学ぶ～
講　師：石塚 美樹 氏（キャリアコンサルタント）

・第４回　平成２６年３月７日（金）
テーマ：食品関連機械団体標準約款導入事例の紹介
講　師：大東 真二 氏（兵神装備㈱ 常務執行役員 東京支店長）

③ 海外研修会の実施

国際委員会との合同企画として、平成２５年９月９日(月)～１５日(日)にIstanbul Food Tech視察及びトルコ食品事情等視察ミッションを実施した。食品・飲料分野から食の安全管理やロジスティック等に関する出展社が一同に揃うIstanbul Food Techの視察はじめ、イスタンブールの食品製造メーカー及び食品市場等を視察、総勢１３名が参加し、現地の最新情報の収集に努めた。

④ 全体会の実施

平成２５年６月１２日（水）のFOOMA JAPAN 2013会期２日目に青年部の新規勧誘活動を兼ねて展示会運営に関する意見交換の場を設けた。

また、平成２５年１１月７日（木）から８日（金）にかけて、愛媛を研修の地とし

て国内研修会を実施した。７日（木）は株式会社日本キャリア工業、株式会社母恵夢を視察、夕刻は懇親を兼ねた情報交換会を行い、総勢４１名が参加し見識を広めた。翌８日（金）には有志１８名による懇親ゴルフコンペがエリエールゴルフクラブ松山にて行われた。

(3) 支部会活動

① 地域別部会

ａ）中部支部会

平成２５年７月１０日(水)に中部支部会を開催した。同支部会では、今年２０年に１度の式年遷宮にあたる伊勢神宮を参拝、お神楽を奉納後、御垣内参拝を行った。

ｂ）西部支部会

平成２５年１１月１７日（火）に帝国ホテル大阪で西部支部会を開催した。同支部会では、藤崎健一氏（㈱カレン 代表取締役社長）を講師に招いて講演会を開催した。

② 業種別部会

平成２５年１１月１４日（木）～１５日（金）を会期として、部会員企業の製造現場見学と製品である機械の稼働実態視察をテーマに、肉類・水産加工機械部会を大阪にて実施した。部会員企業である㈱なんつねを見学し、同社の紹介によりユーザーであるスーパーサンプラザ 堺丹南物流センターを視察した。

また、FOOMA JAPAN 2013において「AIB FOOMA特別講演会」等の企画開催に協力した。

７．食品機械の安全・衛生化等に関するサポート事業

(1) 安全衛生化サポート

平成２５年に食品加工機械の安全設計に対する規制が労働安全衛生規則に盛り込まれた他、機械装置メーカーに対する罰則規定の検討も始まった。このように機械製造企業において今後一層、安全設計に精通したエンジニアの育成が重要となる。当産業界におけるこのような専門知識を有するエンジニアの育成、並びに関連資格である「システム安全エンジニア」の取得を支援するため、「安全・衛生企画委員会」は次の事業を実施した。

① 国際安全規格対応講習会の実施

ａ）安全設計基本概念

受講者数：122名

講　　師：大村 宏之（(一社)日本食品機械工業会　事業部長）

内　　容：－国際法令、国際規格、JISの関係と概要

－安全及び衛生設計の概念

－安全設計の主な保護方策と演習

b）リスクアセスメント方法論

受講者数：６４名

講　　師：大村 宏之（(一社)日本食品機械工業会　事業部長）

内　　容：－リスクアセスメントプロセスと各ステップの作業
－ユーザとメーカーのリスクアセスメントの違い
－モデル機を用いたリスクアセスメント実習

c）制御盤設計

受講者数：３６名

講　　師：岡村 隆一 氏（さくらマシナリーコンサルティング　代表）

内　　容：－電気安全規格の概要
－電源、動力、制御、接地回路の施行例
－エンクロージャ内の機器配置例

d）取扱説明書

受講者数：４８名

講　　師：石井　満 氏（(一社)テクニカルコミュニケータ協会　理事）
大村 宏之（(一社)日本食品機械工業会　事業部長）

内　　容：－取扱説明書に関する法令、及び規格の要求
－取扱説明書作成方法と手順
－取扱説明書作成に関する事例研究及び演習

② 国際安全規格対応講習会のテキスト作成

当該講習会は、安全設計に関する実務能力の習得だけでなく、安全設計に関する能力を証明する資格「システム安全エンジニア(SSE)」の取得も併せて目的としている。この資格は明治大学の向殿元学部長、及び長岡技術科学大学が中心となる「システム安全エンジニア資格認定委員会」が運営する。そこで当講習会にて使用する全てのテキストは、規格対応を維持するための修正を行うとともに、長岡技術科学大学による監修を受け、適切性の維持に努めた。

③ 安全衛生設計のサポート

国際安全規格に基づく設計を行う際、規格要求事項の設計への落とし込みがしばしば問題となる。安全設計、及びリスクアセスメントの考え方等に関する具体的課題に対するサポートを電話及び対面により行った。

(2) 警告ラベル頒布事業

会員企業の安全化対策等への支援の一環として、ISO 3864、ISO 11684を参考に作成した警告ラベルを頒布した。

(3) 技能向上事業

食品機械の設計・製造に直接関わる人材の基礎技能の充実によって食品機械の様々な

性能向上を図るため、機械加工の分野における基礎学力向上を目的とした講習会を開催した。

開催時期：平成２５年８月５日（月）～７日（水）
受講人数：２４名
会　　場：(一社)日本食品機械工業会　会議室
講　　師：岡部 眞幸 氏（職業能力開発総合大学校　准教授）

(4) 海外・国内PL保険

製造物責任（PL）法に対応し、当該機械の万一の損害賠償の発生に対し、会員企業の救済を図るため団体海外PL保険並びに団体国内PL保険制度への加入促進活動を継続実施し、会員企業へより有利なPL法対策に供した。

(5) 食品関連機械団体標準約款頒布事業

食品機械業界における契約時にかかる労力の低減、及び契約相手との公平な契約を締結することを目的とした食品関連機械団体標準約款及びその解説を平成２３年度から引き続き頒布し、広く業界標準約款の普及に努めた。

8．展示会事業

３６回目の開催となる今年度のFOOMA JAPAN 2013では、「集う、出会う。食の未来が広がる。」をテーマとして、食の安全・安心への関心の高まりを背景として、食品機械の業界を取り巻く様々な課題に対する最先端テクノロジー、製品、サービスを発信し、食の技術が拓く、ゆたかな未来を提案した。

そのほか、主催者団体として業界関係者のみならず多くの関心者が参集するFOOMA JAPANの特徴を活用し、主催者団体として国民生活の食の安全及び衛生に寄与するために最新の研究成果を発表するアカデミックプラザの開催や、海外交流を推進する企画として、各種関係機関等とも連携して実施するグローバルスペースの設置等海外機関の情報発信並びに海外来場者へのサポートに取り組むことにより、社会還元に努めた。

なお、安全な展示会運営を行うため、避難訓練の実施等防災・安全対策に取り組んだ。

(1) FOOMA JAPAN 2013（国際食品工業展）実施概要

開催期間：平成２５年６月１１日（火）～１４日（金）
会　　場：東京ビッグサイト　東展示棟全館
テ ー マ：集う、出会う。食の未来が広がる。
展示規模：725社 2,971小間
来場者数：94,087名

(2) 広 報 活 動

メインビジュアルを作成し、展示会のイメージアップと再認知を図ることとした。また、機関紙「ふーま」117号、118号を展示会会期前後に展示会特集号として発行し、広報活動に努めたほか、展示会公式Webサイトやメールマガジンの発行、各種広報媒体を

効率的に活用し、タイムリーな展示会情報の発信を行った。

さらに、海外の食品関連産業関係者等へPRブースを提供するとともに、当工業会として海外主要展示会へのブースの交換出展や視察団の受け入れ等により、相互交流を推進し、FOOMA JAPAN 並びに我が国食品機械産業の認知度向上に努めた。

(3) プレゼンテーションセミナー

東京ビッグサイト会議棟の特別会場にセミナー会場を設置して、平成２５年６月１２日（水）～１４日（金）の３日間、出展社の製品情報や新技術発表の場としてプレゼンテーションセミナーを開催した。２５社３０のセミナーに延べ2,350名の聴講者が集まった。

また、出展者と聴講者の交流の場として新たにプレセミラウンジを設け、出展者・聴講者のさらなる利便の増進を図った。

(4) イ ベ ン ト

青年部の企画・運営のもと、「FOOMAビジネスフォーラム」と題して、森永卓郎氏（経済アナリスト・獨協大学教授）を講師に迎え、「変化の時代の今、企業に求められているものは？」をテーマに講演会を企画・開催した。講演会には421名の聴講者が参加し、大好評を博した。また、青年部は諸事業の円滑な運営にも努めた。

(5) 開催祝賀レセプション

全ての出展者及び多くの業界関係者が一堂に会し、活発な情報交換が行える場を提供することにより、食品機械等に関する公正な「商取引」や「技術開発競争環境」の確保、展示会の地位向上、さらには関連産業の健全な発展の一助とするため、会期初日の平成２５年６月１１日（火）夕刻に開催祝賀レセプションを開催した。また、広報委員会の企画・運営のもと、ゲストに杉山 愛氏を招き、出展者サービスに努めた。

(6) 出展者・来場者サービス

東京ビッグサイト最寄り駅からの送迎用シャトルバスの運行、快適なビジネス空間を創出するVIPラウンジの設置、クロークの設置ほか、インフォメーション機能の充実に努め、出展者・来場者サービスの一層の充実を図った。

(7) 日本貿易振興機構（ジェトロ）海外バイヤー商談会

日本貿易振興機構（ジェトロ）がアジア地域（インド、インドネシア、シンガポール、ミャンマー）からバイヤーを招聘し、展示会視察及び製品導入に関して出展社との商談の機会を設けた。活発な商談が行われ、成約に至った例も多く、大きな成果を得た。

(8) 日食工コーナー

工業会活動や沿革等を展示パネルで紹介する「日食工コーナー」を、東京ビッグサイト東４ホール前ガレリアに開設した。コーナー内には、国際規格対応、及び北米のUL規格に対応した２種類の制御盤モデルを展示し、紹介した。さらに、欧州の一般衛生構造ガイドラインを提供するEHEDGの紹介コーナーを併設し、EHEDGに関する質問・問い合わせに応じた。

(9) FOOMA JAPAN 2014（国際食品工業展）の準備

FOOMA JAPAN 2014の実行委員会を立ち上げ、次回展示会の準備に着手した。開催基本計画の概要は以下の通り。

会　　期：平成２６年６月１０日（火）～１３日（金）〔４日間〕
開場時間：午前１０時～午後５時
会　　場：東京ビッグサイト（東展示棟）
テ ー マ：食の未来を探しに行こう。

FOOMA JAPAN 2014（国際食品工業展）終了後は、その実施結果を踏まえ、次回展示会の準備に着手することとする。

9．技術研究促進事業

技術委員会を中心に会員企業の技術力の向上、食品機械産業を取り巻く諸問題に対応するため、以下の事業に取り組んだ。

(1) 研修会・講習会の企画運営

会員企業に対し広範な技術的支援を行うため、FOOMA JAPANの各併催セミナーから時期的・社会的に即応したテーマを厳選した「技術委員会１Day特別講演会」を下記の通り実施した。

開 催 日：平成２５年１１月８日（金）
場　　所：グランパークタワープラザ棟３Ｆ（東京都港区芝浦３－４－１）
講演内容：① テーマ１（美味しさ）

■食品の美味しさを演出する気泡の不思議
豊田 淨彦 氏（神戸大学　教授）
聴講者数：２１名

■美味しさはバランス感覚 －米のタンパク質含量とアミロース含量のバランスが食味評価に与える影響－
川村 周三 氏（北海道大学 教授）
聴講者数：２２名

■高アミロース米のダイレクト糊化による食品の高付加価値化
杉山 純一 氏（食品総合研究所 ユニット長）
聴講者数：２２名

② テーマ２（殺菌）

■殺菌処理工程における単位操作 「食品の加熱殺菌処理における原理と操作上の問題」
土戸 哲明 氏（関西大学 教授）
聴講者数：２２名

■ジュール加熱を利用した固体及び固体様食品の新規加工・殺菌法
酒井　昇 氏（東京海洋大学 教授）
聴講者数：２５名

(2) 工場・研究施設の視察

会員企業の技術的課題に応えるため、下記の通り施設見学会を開催した。

開 催 日：平成２５年９月１０日（火）
見 学 先：㈱原田・ガトーフェスタ ハラダ本社工場
赤城乳業㈱ 本庄千本さくら『５Ｓ』工場
参加人数：１９名

(3) 研究者データベースの更新

会員企業に対する技術支援活動並びに産学共同研究の交流促進を図るため、食品工学・機械工学等の分野に関わる研究者に関する最新データの収集を行い、交流促進の一助とした。

10. 広 報 事 業

広報委員会を中心に、会員企業、食品産業関連企業、関係機関に対して、当工業会の事業活動を積極的に広報するために以下の事業を実施した。

(1) 「日食工だより」の発行

会報誌「日食工だより」を毎月発行したほか、業界に関する情報を取り上げた「月刊FOOMAトレンディ」を別冊で発行し、タイムリーな情報提供に努めた。

(2) 時局講演会の開催

講師にリチャード・クー氏（㈱野村総合研究所 主席研究員 チーフエコノミスト）を招き、平成２５年１０月２４日（木）第一ホテル東京で時局講演会を開催した。会員企業、FOOMA JAPAN出展社、食品関連産業関係者を対象に、業界発展の一助として企画し、聴講者は151名。

(3) 日食工ガイドの改訂

当工業会の概要を広報する「日食工ガイド」について、改訂時期に伴い、内容を精査し改訂作業に着手した。

11. 国際交流事業

海外市場におけるFOOMA JAPANのPR活動に努め、また、さらなる拡充のために海外市場の食品動向を調査すべく、青年部との合同企画として、平成２５年９月９日（月）～１５日（日）にIstanbul Food Tech視察及びトルコ食品事情等視察ミッションを実施した。食品・飲料分野から食の安全管理やロジスティック等に関する出展社が一同に揃うIstanbul Food Techの視察はじめ、イスタンブールの食品製造メーカー及び食品市場等を視察、総勢１３名が参加し、現地の最新情報の収集に努めた。

12. 特 別 事 業

売買契約書（請負契約書を含む）に定める事項は、取引の対象となった機械において人身事故や経済的損失等が生じた際の責任範囲を定める極めて重要な取り決めである。

「標準約款調査研究委員会」では平成２３年度より食品関連機械団体標準約款の頒布を開始し、業界へ広く頒布するためのスキーム開発、業界標準約款の安定供給に努めている。今年度は、業界標準約款のさらなる安定供給に資するため、当工業会のWebサイトに同約款の概要及び購入方法を掲載した。また、業界標準約款の各条項を理解促進するため、トラブル事例研究会を以下の通り実施した。

開 催 日：① 大阪会場：平成２５年１２月６日（金）
② 東京会場：平成２５年１２月１９日（木）
場　　所：① 大阪会場：新大阪丸ビル別館１Ｆ「１－１」
（〒533-0033 大阪市東淀川区東中島１－１８－２２）
② 東京会場：ホテルJAL City田町 Ｂ１Ｆ「鳳凰」
（〒108-0023 東京都港区芝浦３－１６－１８）
内　　容：① 事例の解説
② 質疑応答
③ 食品関連機械団体標準約款に関するWebサイトのご紹介

13. 会館（ふーまビル）運営事業

当工業会財務の基盤強化を図るため、会館の一部を賃貸した。

14. その他事業

(1) 食品機械の機種別販売額・輸出額統計調査

会員企業の経営指針としての活用、当工業会の事業活動及び業界の将来ビジョンの策定等に反映させるための基礎資料とすることを目的として、会員企業を対象に四半期ごとに食品機械の機種別による販売額・輸出額に係る調査を実施した。

(2) 中小企業事業活動の支援制度利用の推進

中小企業にとって必要な政策について、当工業会のWebサイトや機関誌等を通じてその周知に努めた。

(3) 「生産性向上設備投資促進税制」証明書発行業務

産業競争力強化法の施行に伴い、平成２６年１月２０日より、生産性の向上につながる設備投資を促進するための税制措置（生産性向上設備投資促進税制）が創設された。

同制度において税制上の優遇を享受するためには、設備が一定の要件を満たす事を示す証明書が必要とされる。当工業会は当該証明書を発行する機関のひとつとして、証明書の発行業務を行った。

(4) 新春懇話会・賀詞交歓会

会員サービスの一環として、平成２６年１月１７日（金）、東京プリンスホテルにおいて、新春懇話会、賀詞交歓会を開催した。

(5) 当工業会Webサイトの運営

会員企業をはじめ、食品産業関連企業、研究機関、一般の方を対象に、関連する法令・告示・通達や、当工業会の事業活動等をWebサイトに掲載し、広く情報を提供した。

また、当工業会への入会、会員企業の広報の一助となるよう、さらには国民の食生活向上に貢献できるよう、より有効な利用方法について検討、改訂を行った。

Ⅲ. 会員状況

平成26年3月31日現在の会員数は、正会員として法人会員170社、団体会員2団体、賛助会員として106社の合計278社となった。

平成25年度における会員の入退会状況は下記の通りである。

1. 入会会員（入会順）

正会員

㈱粉研パウテックス	㈱秋山機械
㈱フジイ機械製作所	㈱ツカコム
㈱ヨシダキカイ	㈱田中機工
㈱フジ	㈱エフ・エム・アイ

賛助会員

㈱ナオミ	㈱食品施設計画研究所
㈱エヌワイビー	ザルトリウス・ジャパン㈱
オリエンタルモーター㈱	GEAウエストファリア セパレータージャパン㈱
三共空調㈱	

2. 退会会員（退会順）

㈱佐久間製作所	㈱セイホー
大阪シーリング印刷㈱	㈱戸野機械製作所

Ⅳ. 委員会・部会活動等の功労者表彰について

委員会・部会活動等の功労者表彰規程に基づく今年度の功労者表彰は下記の通りである。

（五十音順、敬称略）

市川　茂	株式会社マスダック
吉比正弥	株式会社クレオ
新原洋介	株式会社ファクシム
南　常之	株式会社なんつね
山本泰三	大阪サニタリー金属工業協同組合

Ⅴ. 附属明細書

平成２５年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第３４条第３項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

役　員　名　簿

会　長	林　孝司	関東混合機工業㈱	社　長
副会長	大田俊一	兵神装備㈱	専　務
副会長	品川士郎	㈱品川工業所	社　長
副会長	海内栄一	花木工業㈱	社　長
副会長	植田英雄	四国化工機㈱	会　長
専務理事	鈴木芳雄	(一社)日本食品機械工業会	
理　事	長沼一雄	㈱長沼製作所	社　長
理　事	大川原行雄	㈱大川原製作所	社　長
理　事	大竹智彦	㈱大竹麺機	社　長
理　事	吉田達	千代田金属工業㈱	社　長
理　事	梁島安秀	㈱トーリツ	社　長
理　事	櫻澤誠	㈱冨士製作所	社　長
理　事	増田文治	㈱マスダック	社　長
理　事	中章	㈱前川製作所	相談役
理　事	相原勝	岩井機械工業㈱	社　長
理　事	井上拓	第一工業㈱	社　長
理　事	田代康憲	レオン自動機㈱	社　長
理　事	木原和由	㈱サタケ	専　務
理　事	七瀧謙	㈱イズミフードマシナリ	社　長
理　事	河野猛	明治機械㈱	社　長
監　事	高橋隆夫	㈱ビッグツリー	監査役
監　事	柳屋芳雄	㈱ヤナギヤ	社　長

※所属・役職等は平成26年3月31日を基準とした。

平成２５年度委員会等担当者表

委員会名	担当副会長	委員長	事務局担当者
運営委員会	大田俊一	大川原行雄	大河原・松元 大熊・湯本
FOOMA JAPAN(国際食品工業展)			
２０１３展示会実行委員会	林　孝司	中　章	大河原 松元・大熊
２０１４展示会実行委員会	林　孝司	櫻澤　誠	大河原 松元・大熊
安全・衛生企画委員会	品川士郎	品川士郎	大村・湯本
FOOMAアカデミー運営委員会	海内栄一	海内栄一	河内・黒澤 奥原・大村
技術委員会	海内栄一	梁島安秀	黒澤・大村
広報委員会	大田俊一	吉田　達	小谷・河内
国際委員会	大田俊一	増田文治	河内・小谷
青年部運営委員会	海内栄一	吉比正弥	松元・大熊
ＪＩＳ改正委員会	林　孝司	中西一弘	大村・湯本
特別委員会			
標準約款調査研究委員会	植田英雄	大田俊一	黒澤・湯本・大村
支部会			
地域別部会			
東部支部会	(専務理事) 鈴木芳雄	大竹智彦	奥原・松元
中部支部会	(専務理事) 鈴木芳雄	大川原行雄	奥原・松元
西部支部会	(専務理事) 鈴木芳雄	井上　拓	奥原・松元
業種別部会	(専務理事) 鈴木芳雄	(専務理事) 鈴木芳雄	河内

運営委員会委員名簿

委員長	大川原 行 雄	㈱大川原製作所	社長
委員	長沼 一 雄	㈱長沼製作所	社長
委員	海内 栄 一	花木工業㈱	社長
委員	増田 文 治	㈱マスダック	社長
委員	高橋 隆 夫	ビッグツリー㈱	監査役

※所属・役職等は平成26年3月31日を基準とした。

FOOMA JAPAN 2013 展示会実行委員会委員名簿

委員長	中　　章	㈱前川製作所	相談役
副委員長	海内栄一	花木工業㈱	社長
副委員長	櫻澤　誠	㈱冨士製作所	社長
委員	梁島安秀	㈱トーリツ	社長
委員	吉田　達	千代田金属工業㈱	社長
委員	増田文治	㈱マスダック	社長
委員	井上　拓	第一工業㈱	社長
委員	大東真二	兵神装備㈱	常務
委員	小根田哲也	鈴茂器工㈱	取締役
委員	吉比正弥	㈱クレオ	リーダ
委員	清野秀昭	レオン自動機㈱	次長
委員	林　純一	関東混合機工業㈱	専務
委員	前田知子	㈱前川製作所	係長
委員	南　常之	㈱なんつね	社長
委員	渡邊将博	ワタナベフーマック㈱	取締役

※所属・役職等は平成25年6月8日を基準とした。

FOOMA JAPAN 2014 展示会実行委員会委員名簿

委員長	櫻澤　誠	㈱冨士製作所	社長
副委員長	増田文治	㈱マスダック	社長
副委員長	吉比正弥	㈱クレオ	部長
委員	海内栄一	花木工業㈱	社長
委員	梁島安秀	㈱トーリツ	社長
委員	吉田　達	千代田金属工業㈱	社長
委員	大東真二	兵神装備㈱	常務
委員	小根田哲也	鈴茂器工㈱	取締役
委員	清野秀昭	レオン自動機㈱	次長
委員	前田知子	㈱前川製作所	係長
委員	南　常之	㈱なんつね	社長

※所属・役職等は平成26年3月31日を基準とした。

安全・衛生企画委員会委員名簿

会長	林　孝司	関東混合機工業㈱	社長
委員長	品川士郎	㈱品川工業所	社長
委員	小沼博隆	千葉大学	客員講師
委員	福崎智司	三重大学	教授
委員	井上好文	(一社)日本パン技術研究所	所長
委員	土屋禎	(一財)日本食品分析センター	課長
委員	浦野博水	岡山県工業技術センター	専門研究員
委員	設楽英夫	サニタリーエンジニアリングコンサルタント	代表
委員	中川則和	㈱紀文フレッシュシステム	常勤監査役
委員	小野口和良	レオン自動機㈱	執行役員
委員	萬本信三	㈱前川製作所	顧問
委員	森江康雄	岩井機械工業㈱	主幹
委員	山根哲男	兵神装備㈱	部長
委員	山本泰三	大阪サニタリー金属工業協同組合	部長
委員	川田浩範	㈱イズミフードマシナリ	取締役

※所属・役職等は平成26年3月31日を基準とした。

安全・衛生企画委員会
洗浄評価試験サブグループ委員名簿

委員長	品川士郎	㈱品川工業所	社長
主査	小沼博隆	千葉大学	客員講師
委員	福崎智司	三重大学	教授
委員	浦野博水	岡山県工業技術センター	専門研究員
委員	土屋禎	(一財)日本食品分析センター	副部長
委員	設楽英夫	サニタリーエンジニアリングコンサルタント	代表
委員	中川則和	㈱紀文フレッシュシステム	常勤監査役
委員	山根哲男	兵神装備㈱	部長
委員	山本泰三	大阪サニタリー金属工業協同組合	部長
委員	川田浩範	㈱イズミフードマシナリ	取締役

安全・衛生企画委員会
フィンガーテスタ開発研究サブグループ委員名簿

委員長	品川士郎	㈱品川工業所	社長
主査	福田隆文	長岡技術科学大学	教授
委員	勅使河原浩樹	スペクトリス㈱	部長
委員	三竹隆雄	スペクトリス㈱	ｾｰﾙｽｴﾝｼﾞﾆｱ
委員	中川則和	㈱紀文フレッシュシステム	常勤監査役
委員	赤池智士	関東混合機工業㈱	課長
委員	梅本和彦	ワタナベフーマック㈱	次長
委員	山中広幸	レオン自動機㈱	課長
オブザーバ	田村雄基	長岡技術科学大学	

※所属・役職等は平成26年3月31日を基準とした。

EHEDG JAPAN REGIONAL COMMITTEE 委員名簿
(SUB－GROUP 1)

議　長	林　孝司	関東混合機工業㈱	社　長
委　員	中西一弘	中部大学	教　授
委　員	中川則和	㈱紀文フレッシュシステム	常勤監査役
委　員	鷲巣恵一	山崎製パン㈱	技術顧問
委　員	嶋多優	㈱ユーロテクノ	社　長
委　員	清水喜治	岩井機械工業㈱	取締役

EHEDG JAPAN SUB－GROUP 2 委員名簿

委員長	中川則和	㈱紀文フレッシュシステム	常勤監査役
委　員	河野　宏	岩井機械工業㈱	主　任
委　員	榎田政純	ハバジット日本㈱	上級スペシャリスト

※所属・役職等は平成26年3月31日を基準とした。

FOOMAアカデミー運営委員会委員名簿

塾長	松野隆一	石川県立大学	名誉教授
委員長	海内栄一	花木工業㈱	社長
副委員長	荒川喜久男	㈱荒川製作所	取締役
副委員長	梶原秀浩	梶原工業㈱	社長
委員	櫻澤誠	㈱冨士製作所	社長
委員	大川原行雄	㈱大川原製作所	社長
委員	吉田達	千代田金属工業㈱	社長
委員	梁島安秀	㈱トーリツ	社長
委員	杉野洋	明治機械㈱	顧問
委員	北條真俊	レオン自動機㈱	次長
委員	中村隆	㈱ダイキンアプライドシステムズ	部長
委員	田中泰介	㈱安川電機	部長代理
委員	河原利行	オムロン㈱	主事

※所属・役職等は平成26年3月31日を基準とした。

技術委員会委員名簿

委員長	梁島安秀	㈱トーリツ	社長
副委員長	中村　隆	㈱ダイキンアプライドシステムズ	部長
副委員長	伊藤静夫	㈱榎村鐵工所	社長
副委員長	櫻澤勇二	㈱冨士製作所	専務
副委員長	細山義男	ニチラク機械㈱	部長
副委員長	植田洋一	植田酪農機工業㈱	常務
委員	萬本信三	㈱前川製作所	顧問
委員	吉野行英	㈲吉野麺機製作所	社長
委員	上村信作	ツカサ工業㈱	常務
委員	北條真俊	レオン自動機㈱	次長
委員	坂本眞一	㈱クレオ	リーダ
委員	市川　茂	㈱マスダック	執行役員
委員	加藤直彦	OMC㈱	課長
委員	常世田晃伸	岩井機械工業㈱	部長
委員	西村英一	福伸工業㈱	社長
委員	大村利夫	㈱前川製作所	課長
委員	古屋慎一郎	㈱サタケ	副本部長
委員	坂野利明	アサヒ装設㈱	部長
委員	赤池智士	関東混合機工業㈱	課長
委員	田中泰介	㈱安川電機	部長代理
委員	加藤泰弘	ニッタ㈱	副部長
委員	唐司和士	明治機械㈱	営業部
委員	高橋　一	㈱イズミフードマシナリ	主席技師
委員	藤川康次	四国化工機㈱	部長
委員	烝原健一	㈱奈良機械製作所	部長

※所属・役職等は平成26年3月31日を基準とした。

広報委員会委員名簿

委員長	吉田　達	千代田金属工業㈱	社長
委員	笹子勝彦	㈱奈良機械製作所	上席部長
委員	佃　純誠	ＭＳＳ研究所	
委員	岡本由佳	㈱ダイゾー	係長
委員	秋山康子	ニチモウ㈱	担当課長
委員	花井　淳	㈱馬場鐵工所	事業部長
委員	坂田博明	サクラエスアイ㈱	副本部長
委員	蓑津忠臣	㈱クレオ	東京ハード事業部
委員	宮島昭治	㈱前川製作所	取締役
委員	小坂　孝	レオン自動機㈱	課長
委員	沖原　健	㈱サタケ	執行役員
委員	本田里美	関東混合機工業㈱	取締役
委員	柴山昭年	三木プーリ㈱	

※所属・役職等は平成26年3月31日を基準とした。

国際委員会委員名簿

委員長	増田文治	㈱マスダック	社長
副委員長	馬場正寿	三木プーリ㈱	支店長
副委員長	南常之	㈱なんつね	社長
委員	沖原健	㈱サタケ	執行役員
委員	植田英雄	四国化工機㈱	会長
委員	大竹智彦	㈱大竹麺機	社長
委員	杉野洋	明治機械㈱	顧問
委員	吉野行英	㈲吉野麺機製作所	社長
委員	古屋総一	戸倉商事㈱	副所長
委員	稲葉稔和	㈱前川製作所	部長代理
委員	中村伸二郎	ハイテック㈱	取締役
委員	佐山豊	レオン自動機㈱	課長
委員	宮坂隆美	サクラエスアイ㈱	副本部長
委員	花井淳	㈱馬場鐵工所	事業部長
委員	相原勝	岩井機械工業㈱	社長
委員	新原洋介	㈱ファクシム	取締役
委員	舩本泰介	㈱イズミフードマシナリ	部長
委員	生駒啓太郎	㈱吉源テクノインターナショナル	社長
委員	齋藤隆	㈱タカミ	会長
委員	田中弘之	四国化工機㈱	部長
委員	岡本由佳	㈱ダイゾー	係長
委員	矢澤真裕	㈱フジラワテクノアート	専務
委員	高田由季	㈱コマツ製作所	国際部
委員	林純一	関東混合機工業㈱	専務
委員	岩子眞由美	㈱粉研パウデックス	社長

※所属・役職等は平成26年3月31日を基準とした。

青年部運営委員会委員名簿
(青年部役員名簿)

委員長／部長	吉比正弥	㈱クレオ	部長
副委員長／副部長	南常之	㈱なんつね	社長
副委員長／副部長	山田光二	㈱馬場鐵工所	リーダー
副委員長／副部長	小根田哲也	鈴茂器工㈱	取締役
委員／幹事	荒川喜久男	㈱荒川製作所	取締役
委員／幹事	櫻澤誠	㈱冨士製作所	社長
委員／幹事	林純一	関東混合機工業㈱	専務
委員／幹事	前田知子	㈱前川製作所	係長
委員／幹事	渡邊将博	ワタナベフーマック㈱	取締役
委員／幹事	新原洋介	㈱ファクシム	取締役
委員／幹事	加藤康弘	ツカサ工業㈱	取締役
委員／幹事	市川茂	㈱マスダック	執行役員
委員／幹事	石川貴志	プライミクス㈱	課長
委員／幹事	南昭司	奈良機械製作所㈱	副主査
委員／幹事	鈴木稔	OMC㈱	取締役
委員／幹事	阿部勉	岩井機械工業㈱	課長
委員／幹事	長沼秀一	㈱長沼製作所	専務

※所属・役職等は平成26年3月31日を基準とした。

ＪＩＳ改正委員会委員名簿

会長	林　孝司	関東混合機工業㈱	社長
委員長	中西一弘	中部大学	教授
委員	小沼博隆	千葉大学	客員講師
委員	金澤　信	経済産業省	課長補佐
委員	高橋　洋	厚生労働省	安全専門官
委員	朝山恒男	(一財)日本規格協会	技術参事
委員	宮崎浩一	(一社)日本機械工業連合会	次長
委員	髙谷　幸	(公社)日本食品衛生協会	専務理事
委員	大西吉久	(一財)食品産業センター	参与
委員	中峯准一	(一社)日本パン工業会	専務理事
委員	引地聖和	(一社)日本乳業協会	部長
委員	田口博人	(一社)大日本水産会	技術顧問
委員	服部昭仁	(一社)食肉科学技術研究所	理事長
委員	渡邊健壱	ワタナベフーマック㈱	会長
委員	大川原行雄	㈱大川原製作所	社長
委員	森江康雄	岩井機械工業㈱	主幹
委員	古屋慎一郎	㈱サタケ	副本部長
委員	小湊　享	レオン自動機㈱	次長
オブザーバ	平塚智章	経済産業省	室長補佐
オブザーバ	服部嘉博	経済産業省	専門官

※所属・役職等は平成26年3月31日を基準とした。

製粉機械ＪＩＳ改正ワーキンググループ委員名簿

委員長	徳井圭裕	㈱サタケ	技師補
主査	中西一弘	中部大学	教授
委員	服部良夫	製粉協会製粉研究所	主任研究員
委員	鷲巣恵一	山崎製パン㈱	技術顧問
委員	小林博一	㈱日清製粉グループ本社	主査
委員	安田武政	日本製粉㈱	主幹
委員	宮崎浩一	(一社)日本機械工業連合会	部長代理
委員	岡村隆一	さくらマシナリーコンサルティング	代表
委員	西村卓朗	㈱西村機械製作所	社長
委員	織茂健一	明治機械㈱	参事
委員	山田博之	㈱大川原製作所	部長
委員	小野寺博	㈱東京製粉機製作所	部長
委員	有薗健一	㈱奈良機械製作所	リーダ

精米麦加工機械ＪＩＳ改正ワーキンググループ委員名簿

委員長	中西一弘	中部大学	教授
委員	服部嘉博	経済産業省	専門官
委員	梅崎重夫	(独)労働安全衛生総合研究所	部長
委員	宮崎浩一	(一社)日本機械工業連合会	次長
委員	安藤繁	全農パールライス東日本㈱	常務
委員	北島進	㈱ヤマタネ食品本部	生産部長
委員	堀昌文	ホクレン農業協同組合連合会	工場長
委員	木田正一	㈱むらせ	部長
委員	西村卓朗	㈱西村機械製作所	会長
委員	水野英則	㈱サタケ	執行役員
委員	安達洋一	㈱山本製作所	部長
委員	河内武	明治機械㈱	部長
委員	小野寺博	㈱東京製粉機製作所	部長
オブザーバ	平塚智章	経済産業省	室長補佐
委員	川上晃司	㈱サタケ	グループ長

※所属・役職等は平成26年3月31日を基準とした。

標準約款調査研究委員会委員名簿

委員長	大田俊一	兵神装備㈱	専務
委員	西村卓朗	㈱西村機械製作所	会長
委員	櫻澤誠	㈱冨士製作所	社長
委員	梶原秀浩	梶原工業㈱	社長
委員	萬本信三	㈱前川製作所	顧問
委員	北條真俊	レオン自動機㈱	次長
委員	森江康雄	岩井機械工業㈱	主幹
委員	髙橋正明	㈱奈良機械製作所	副参事
委員	古屋慎一郎	㈱サタケ	副本部長
委員	足立洋輔	兵神装備㈱	総務部
委員	矢澤真裕	㈱フジワラテクノアート	専務
委員	植田俊明	㈱品川工業所	部長
委員	鈴木淳史	関東混合機工業㈱	ｱｼﾞｱ事業部長

※所属・役職等は平成26年3月31日を基準とした。

支部会名簿

東部支部

支部長	大竹智彦	㈱大竹麺機	社長

中部支部

支部長	大川原行雄	㈱大川原製作所	社長

西部支部

支部長	井上　拓	第一工業㈱	社長
副支部長	品川士郎	㈱品川工業所	社長
副支部長	西村卓朗	㈱西村機械製作所	会長

※所属・役職等は平成26年3月31日を基準とした。

総会・理事会・委員会・研修会等の開催と経過

1．通　常　総　会

会　議	開　催　日	議　題　等
平成２５年度 定　時　総　会 （第４８回総会）	平成２５年 ５月３０日(木)	[審議事項] 第１号議案： 平成24年度事業報告ならびに同決算報告書および公益目的支出計画実施報告書承認の件 第２号議案： 平成25年度事業計画書並びに同予算書(案)承認の件 第３号議案： 理事の選任の件 [委員会等の功労者表彰]

2．理　事　会

会　議	開　催　日	議　題　等
平成２５年度 第１回理事会 （第２５９回理事会）	平成２５年 ４月２５日(木)	[審議事項] ①平成24年度事業報告・決算報告および公益目的支出計画実施報告の承認について ②平成25年度事業計画および予算案について ③代表理事等の選任について ④定時総会の招集の決定について ⑤会員の入退会について ⑥委員会・部会活動等の功労者表彰について ⑦協賛名義使用の承認について [報告事項] ①代表理事、業務執行理事の職務の執行の状況の報告について ②委員長等の委嘱について ③FOOMA JAPAN 2013の準備状況について ④展示会にかかる答申の諮問について ⑤役員朝食会の開催について ⑥その他
理　事　朝　食　会	平成２５年 ６月１１日(火)	会場：東京ベイ有明ワシントンホテル
平成２５年度 第２回理事会 （第２６０回理事会）	平成２５年 １１月１９日(火)	[審議事項] ①平成25年度上半期事業報告及び決算報告、ならびに平成25年度上半期監査結果報告について ②会員の入会について ③協賛・後援名義使用の承認について ④役員候補の選任に関する考え方について

会　　議	開　催　日	議　　題　　等
		[報告事項] ①FOOMA JAPAN 2013の開催結果報告及び FOOMA JAPAN 2014の準備状況について ②第14期FOOMAアカデミーの準備状況について ③トルコ食品事情等視察ミッション報告 ④平成25年度海外出展調査報告及び平成26年度海外出展調査計画について ⑤平成25年時局講演会の報告について ⑥改正肉類JISについて ⑦平成26年新春行事について ⑧平成26年度定時総会(第49回総会)の日程について ⑨代表理事、業務執行理事の職務の執行状況の報告について ⑩その他
平成２５年度 第３回理事会 (第２６１回理事会)	平成２６年 １月１７日(金)	[審議事項] ①会員の入会について ②協賛名義使用の承認について ③日食工諸規程の見直しについて [報告事項] ①FOOMA JAPAN 2014の準備状況について ②第14期FOOMAアカデミーの準備状況について ③競争力強化に向けた安全・衛生設計高度化支援について ④平成26年度定時総会(第49回総会)対応スケジュール ⑤その他
平成２５年度 第４回理事会 (第２６２回理事会)	平成２６年 ３月１９日(水)	[審議事項] ①平成26年度事業計画案及び予算案について ②協賛名義使用の承認について ③役員改選方針について ④FOOMA展の自主運営(展示会運営委託会社の株式取得)について [報告事項] ①会員の退会について ②FOOMA JAPAN 2014の準備状況について ③第14期FOOMAアカデミーの開催結果について ④2014年度国際安全規格対応講習会について ⑤食品関連機械団体標準約款の無償公開について ⑥生産性向上先端設備投資促進税制証明書の発行報告 ⑦平成26年度会議開催予定について ⑧その他

3．正　副　会　長　会

会　　議	開　催　日	議　　題　　等
平成２５年度 第１回正副会長会	平成２５年 ４月２５日(木)	①平成25年度第１回理事会(第259回理事会)提出議題について ②その他
平成２５年度 第２回正副会長会	平成２５年 ５月３０日(木)	①今後の活動方針について ②その他
平成２５年度 第３回正副会長会	平成２５年 ８月　７日(水)	①今後の工業会について ②平成25年度委員会体制について ③その他
平成２５年度 第４回正副会長会	平成２５年 １０月２９日(火)	①今後の工業会について ②その他
平成２５年度 第５回正副会長会	平成２５年 １１月１９日(火)	①平成25年度第２回理事会(第260回理事会)提出議題について ②その他
平成２５年度 第６回正副会長会	平成２６年 １月１７日(金)	①平成25年度第３回理事会(第261回理事会)提出議題について ②役職員の給与について ③その他
平成２５年度 第７回正副会長会	平成２６年 ３月１９日(水)	①平成25年度第４回理事会(第262回理事会)提出議題について ②その他

4．運　営　委　員　会

会　　議	開　催　日	議　　題　　等
平成２５年度 第１回運営委員会	平成２５年 ４月２２日(月)	①平成24年度事業報告および決算報告案について ②平成25年度事業計画および予算案について ③平成24年度委員会功労者表彰候補者の選出について ④その他
平成２５年度 第２回運営委員会	平成２５年 １１月１４日(木)	①平成25年度第２回理事会(第260回理事会)提出議題について ②その他
平成２５年度 第３回運営委員会	平成２６年 ３月１３日(木)	①平成26年度事業計画案及び予算案について ②その他

５．展示会実行委員会

会　　議	開　催　日	議　　題　　等
FOOMA JAPAN 2013 記　者　発　表　会	平成２５年 ４月１１日(木)	会場：第一ホテル東京
FOOMA JAPAN 2013 第８回 展示会実行委員会	平成２５年 ４月２６日(金)	①出展状況について ②併催行事等の準備状況について ③運営基本計画について ④その他
FOOMA JAPAN 2013 第９回 展示会実行委員会	平成２５年 ５月２１日(火)	①出展状況について ②併催行事等の準備状況について ③会期中のタイムスケジュールについて ④FOOMA JAPAN 2014出展要項について ⑤その他
FOOMA JAPAN 2013 夕　　食　　会	平成２５年 ６月１０日(月)	会場：東京ベイ有明ワシントンホテル
FOOMA JAPAN 2013 第１０回 展示会実行委員会	平成２５年 ６月１０日(月)	①緊急時対応・避難訓練について ②その他
FOOMA JAPAN 2013 （国際食品工業展）	平成２５年 ６月１１日(火) ～１４日(金)	会場：東京ビッグサイト 東展示棟１～６ホール
FOOMA JAPAN 2013 第１１回 展示会実行委員会	平成２５年 ７月２２日(月)	①FOOMA JAPAN 2013開催結果報告 ②FOOMA JAPAN 2013の総括について ③その他
FOOMA JAPAN 2014 第１回 展示会実行委員会	平成２５年 ７月２２日(月)	①FOOMA JAPAN 2014実施基本計画について ②その他
FOOMA JAPAN 2014 第２回 展示会実行委員会	平成２５年 ９月２６日(木)	①FOOMA JAPAN 2014実施基本計画について ②その他
FOOMA JAPAN 2014 第３回 展示会実行委員会	平成２５年 １０月２２日(火)	①出展募集活動の状況について ②運営基本計画について ③併催行事等について ④その他

会　　議	開　催　日	議　　題　　等
FOOMA JAPAN 2014 第４回 展示会実行委員会	平成２５年 １１月２５日(月)	①出展申込状況について ②運営基本計画 ③特別企画・併催行事について ④その他
FOOMA JAPAN 2014 第５回 展示会実行委員会	平成２５年 １２月１７日(火)	①出展申込状況について ②運営基本計画について ③特別企画・併催行事について ④会場構成(出展スペース配置割)について ⑤その他
FOOMA JAPAN 2014 第６回 展示会実行委員会	平成２６年 １月２８日(火)	①出展状況について ②運営基本計画について ③特別企画・併催行事等について ④その他
FOOMA JAPAN 2014 出展社説明会[東京]	平成２６年 ２月１２日(水)	会場：ベルサール飯田橋ファースト ①主催者挨拶 ②ビデオ上映 ③防火・防災・安全対策 ④出展規定について ⑤質疑応答 ⑥閉会挨拶
FOOMA JAPAN 2014 出展社説明会[大阪]	平成２５年 ２月１４日(金)	会場：コンファレンスプラザ大阪御堂筋 ①主催者挨拶 ②ビデオ上映 ③防火・防災・安全対策 ④出展規定について ⑤質疑応答 ⑥閉会挨拶
FOOMA JAPAN 2014 第７回 展示会実行委員会	平成２６年 ３月１２日(水)	①出展状況について ②併催行事・特別企画等の準備状況について ③運営基本計画について ④その他

６．ＦＯＯＭＡアカデミー

会　　議	開　催　日	議　　題　　等
第１４期 FOOMAアカデミー 第１回運営委員会	平成２５年 ５月２４日(金)	①第14期FOOMAアカデミー構成科目、講師について ②第14期パンフレット(案)について ③その他

会　　議	開　催　日	議　　題　　等
第１４期 FOOMAアカデミー 第１回作業部会	平成２５年 １２月　９日(月)	①問題解決力育成実施方法について ②その他
第１４期 FOOMAアカデミー 第２回運営委員会	平成２５年 １２月　９日(月)	①第14期FOOMAアカデミー受講申込状況について ②第14期テキスト原稿受領・校正状況について ③受講証・認定証・委員担当講座等について ④その他
第１４期 FOOMAアカデミー 第２回作業部会	平成２６年 １月２１日(火)	①問題解決力育成講座のグループ分けについて ②その他
第１４期 FOOMAアカデミー	平成２６年 ２月　４日(火) ～　７日(金)	会場：日本食品機械工業会　４Ｆ会議室 ホテルJALシティ田町

7．常　設　委　員　会

会　　議	開　催　日	議　　題　　等
第２９５回 広報委員会	平成２５年 ４月１７日(水)	①FOOMA JAPAN連携事業について ②時局講演会について ③機関誌『ふーま』117号・118号について ④機関誌『ふーま』新企画について
第１１１回 国際委員会	平成２５年 ４月２６日(金)	①FOOMA JAPAN 2013国際化推進活動案について ②海外視察案について ③平成25年度国際委員会事業案について
平成２５年度 第１回技術委員会 アカデミックプラザ 作業部会	平成２５年 ５月１４日(火)	①アカデミックプラザ賞の賞金振り分け方法について ②実演コーナーの変更について ③AP交流会の進行について ④口頭発表のモニタについて
第１３５回 技術委員会	平成２５年 ５月１４日(火)	①前回議事録確認 ②アカデミックプラザについて ③機械系技能士コース基礎学科レベルアップ講座ついて ④１ポイントセミナーについて
平成２５年度 第１回技術委員会 技能士講座作業部会	平成２５年 ５月１４日(火)	①講習会の日程について ②講習会の教科書について ③講習会の募集案内について ④今後のスケジュール

会　　議	開　催　日	議　　題　　等
第２９６回 広　報　委　員　会	平成２５年 ５月１６日(木)	①FOOMA JAPAN 2013連携事業について ②時局講演会について ③機関誌『ふーま』118号･119号について
第１１２回 国　際　委　員　会	平成２５年 ５月２８日(火)	①FOOMA JAPAN 2013国際化推進活動案について ②海外視察について ③平成25年度国際委員会事業案について
第１３６回 技　術　委　員　会	平成２５年 ６月１２日(水)	①アカデミックプラザ交流会の進行確認について
第２９７回 広　報　委　員　会	平成２５年 ６月２６日(水)	①FOOMA JAPAN 2013を振り返って ②時局講演会について ③機関誌『ふーま』118号について ④機関誌『ふーま』119号について
第１３７回 技　術　委　員　会	平成２５年 ７月　２日(火)	①１ポイントセミナー ②前回、前々回議事録確認 ③第７回機械系技能士コース基礎学科レベルアップ講座の受講申込状況報告 ④施設見学会について ⑤講演会について ⑥集中研修会について ⑦アカデミックプラザの結果報告及び2014年度アカデミックプラザの課題検討について
第１１３回 国　際　委　員　会	平成２５年 ７月　５日(金)	①FOOMA JAPAN 2013国際化推進活動の反省について ②海外視察について(進行状況等) ③平成25年度国際委員会事業案について(調査項目案について等) ④その他
第２９８回 広　報　委　員　会	平成２５年 ７月２４日(水)	①時局講演会について ②FOOMA JAPAN連携事業について ③機関誌『ふーま』119号について ④機関誌『ふーま』120号について
第２９９回 広　報　委　員　会	平成２５年 ９月１９日(木)	①時局講演会について ②FOOMA JAPAN連携事業について ③機関誌『ふーま』119号について ④機関誌『ふーま』120号について ⑤その他

会　　議	開　催　日	議　　題　　等
平成２５年度 第２回技術委員会 アカデミックプラザ 作　業　部　会	平成２５年 ９月２０日(金)	①アカデミックプラザ課題の検討 ②開催概要(案)の検討
第１３８回 技　術　委　員　会	平成２５年 ９月２０日(金)	①１ポイントセミナー ②前回議事録確認 ③第７回機械系技能士コース基礎学科レベルアップ講座開催報告 ④施設見学会開催報告 ⑤講演会について ⑥集中研修会について ⑦アカデミックプラザについて
第１１４回 国　際　委　員　会	平成２５年 ９月２５日(水)	①海外視察について ②FOOMA JAPAN 2014国際化推進計画案について ③平成25年度海外出展調査について ④海外市場セミナーについて
第３００回 広　報　委　員　会	平成２５年 １０月２４日(木)	①時局講演会について ②FOOMA JAPAN連携事業について ③機関誌『ふーま』119号について ④機関誌『ふーま』120号について
第３０１回 広　報　委　員　会	平成２５年 １１月１４日(木)	①時局講演会について ②FOOMA JAPAN連携事業について ③機関誌『ふーま』120号について ④機関誌『ふーま』121号について ⑤その他
平成２５年度 第３回技術委員会 アカデミックプラザ 作　業　部　会	平成２５年 １２月　５日(木)	①アカデミックプラザ2014の参加者決定作業について ②AP2014の参加者宛送付書類について
第１３９回 技　術　委　員　会	平成２５年 １２月　５日(木)	①１ポイントセミナー ②前回議事録確認 ③平成25年度事業報告 ④アカデミックプラザ2014について ⑤平成26年度事業計画について
第１１５回 国　際　委　員　会	平成２５年 １２月１０日(火)	①FOOMA JAPAN 2014国際化推進活動案について ②出展調査事業について ③平成26年度国際委員会事業案(骨子)について ④海外市場セミナーについて

会　　議	開　催　日	議　　題　　等
第３０２回 広　報　委　員　会	平成２５年 １２月１９日(木)	①機関誌『ふーま』120号について ②機関誌『ふーま』121号について ③FOOMA JAPAN連携事業について ④その他
第３０３回 広　報　委　員　会	平成２６年 １月１６日(木)	①平成25年度事業報告について ②平成26年度事業計画について ③FOOMA JAPAN連携事業について ④時局講演会について ⑤機関誌『ふーま』120号について ⑥機関誌『ふーま』121号について
平成２５年度 第４回技術委員会 アカデミックプラザ 作　業　部　会	平成２６年 ２月１４日(金)	雪のため中止
第１４０回 技　術　委　員　会	平成２６年 ２月１４日(金)	雪のため中止
第１１６回 国　際　委　員　会	平成２６年 ２月１８日(火)	①FOOMA JAPAN 2014国際化推進活動案について ②平成26年度海外視察(青年部合同企画)について ③平成26年度海外出展調査について
第３０４回 広　報　委　員　会	平成２６年 ２月２０日(木)	①FOOMA JAPAN連携事業について ②時局講演会について ③機関誌『ふーま』121号について ④機関誌『ふーま』122号について ⑤2014年度広報委員会開催スケジュールについて
平成２５年度 第５回技術委員会 アカデミックプラザ 作　業　部　会	平成２６年 ３月１４日(金)	①ブース形状、レイアウト、配置について ②一体化装飾について ③AP交流会について ④AP賞について ⑤産学交流調査アンケートについて
第１４１回 技　術　委　員　会	平成２６年 ３月１４日(金)	①前々回議事録確認 ②AP2014について ③平成26年度実施事業について

８．青　　年　　部

会　　議	開　催　日	議　　題　　等
第３２回 青年部運営委員会	平成２５年 ５月２０日(月)	①青年部運営委員会新体制について ②新入部員の承認について ③平成24年度事業報告 ④FOOMA JAPAN 2013について ⑤平成25年度事業計画について ⑥その他
青年部第１２９回全体会 (平成２５年度第1回青年部経営勉強会)	平成２５年 ５月２０日(月)	会場：日本食品機械工業会　４Ｆ会議室 演題：ロジカルシンキング ～相手を説得する為の『伝える力』を150%アップさせる～ 講師：田中浩氏(経営コンサルタント)
青年部第１３０回全体会	平成２５年 ６月１２日(水)	会場：大江戸温泉物語
第３３回 青年部運営委員会	平成２５年 ７月　４日(木)	①新入部員の承認について ②FOOMA JAPAN 2013について ③平成25年度事業活動 ④その他
青年部第１３１回全体会 (平成２５年度第2回青年部経営勉強会)	平成２５年 ７月　４日(木)	会場：日本食品機械工業会　４Ｆ会議室 演題：発想法～業務で活用できる発想力強化研修～ 講師：吉成篤氏(中小企業診断士、セールストレーニング研究所 代表)
第３４回 青年部運営委員会	平成２５年 １０月２５日(金)	①新入部員の承認について ②FOOMA JAPAN 2014について ③今後の活動計画について ④平成25年度海外視察ミッションの結果報告について ⑤その他
青年部第１３２回全体会 (平成２５年度第3回青年部経営勉強会)	平成２５年 １０月２５日(金)	会場：日本食品機械工業会　４Ｆ会議室 演題：コミュニケーション ～効果的な伝え方を学ぶ～ 講師：石塚美樹氏(キャリアコンサルタント)
青年部第１３３回全体会 (第２９回青年部国内研修会)	平成２５年 １１月　７日(木) ～　８日(金)	見学先：㈱日本キャリア工業 ㈱母恵夢
第３５回 青年部運営委員会	平成２５年 １２月１８日(水)	①新入部員の承認について ②FOOMA JAPAN青年部担当企画について ③平成26年度の事業計画について ④その他

会　　議	開　催　日	議　　題　　等
青年部第１３４回全体会	平成２５年 １２月１８日(水)	会場：電通四季劇場
第３６回 青年部運営委員会	平成２６年 ３月　７日(金)	①新入部員の承認について ②FOOMA JAPAN 2014青年部担当企画について ③平成26年度事業計画について ④その他
青年部第１３５回全体会 (平成25年度第4回青年部経営勉強会)	平成２６年 ３月　７日(金)	会場：日本食品機械工業会　４Ｆ会議室 演題：食品関連機械団体標準約款導入事例の紹介 講師：大東真二氏(兵神装備㈱ 常務執行役員 東京支店長)

９．安全・衛生化事業

会　　議	開　催　日	議　　題　　等
平成２５年度 第１回 ＪＩＳ改正委員会	平成２５年 ５月１０日(金)	①肉類加工機械JIS改正原案の確認について ②製粉機械JIS改正原案について ③精米麦JIS改正作業について ④その他
平成２５年度 JIS改正委員会第１回 精米麦機械JIS改正 ワーキンググループ	平成２５年 ６月２５日(火)	①精米麦JIS改正作業概要 ②機械安全JIS、リスクアセスメント、規格作成の概要 ③JIS化する対象機械の選定 ④その他
ＥＨＥＤＧ　Ｄｏｃ３２ ワーキンググループ	平成２５年 ６月２６日(水)	①Doc32その他
平成２５年度 第１回 安全衛生企画委員会	平成２５年 ８月２９日(木)	①洗浄性評価試験の実施について ②フィンガーテスタの開発について ③UL/IEC対応講習会について ④国際規格対応講習会について ⑤安全･衛生関連法令調査について
平成２５年度 安全衛生企画委員会 第1回フィンガーテスタ 開発サブグループ	平成２５年 ９月　４日(水)	①フィンガーテスタ開発事業 事業計画及び作業概要 ②その他
平成２５年度 安全衛生企画委員会 フィンガーテスタ開発サブグループ 第1回フィンガーテスタ開発 ワーキンググループ	平成２５年 ９月２５日(水)	①フィンガーテスタ試験

会　　議	開　催　日	議　　題　　等
平成２５年度 安全衛生企画委員会 フィンガーテスタ開発サブグループ 第2回フィンガーテスタ開発 ワーキンググループ	平成２５年 １０月１７日(木)	①フィンガーテスタ試験
平成２５年度 安全衛生企画委員会 フィンガーテスタ開発サブグループ 第3回フィンガーテスタ開発 ワーキンググループ	平成２５年 １１月　８日(金)	①フィンガーテスタ試験
平成２５年度 JIS改正委員会第２回 精米麦機械JIS改正 ワーキンググループ	平成２５年 １１月２５日(月)	①精米麦機械リスクアセスメント結果について
平成２５年度 第２回 ＪＩＳ改正委員会	平成２５年 １２月　２日(月)	①改正肉類加工機械JISについて ②製粉機械JIS改正原案について ③精米麦機械JISリスクアセスメント結果について ④その他
平成２５年度 安全衛生企画委員会 第2回フィンガーテスタ 開発サブグループ	平成２５年 １２月　５日(木)	①フィンガーテスタ開発事業中間報告 ②今後の予定について ③その他
平成２５年度 JIS改正委員会第３回 精米麦機械JIS改正 ワーキンググループ	平成２６年 ２月１８日(火)	①精米麦JIS改正原案について ②その他
平成２５年度 第１回 標準約款調査研究委員会	平成２６年 ２月２８日(金)	①平成25年度事業報告 ②平成26年度事業計画
平成２５年度 安全衛生企画委員会 第3回フィンガーテスタ 開発サブグループ	平成２６年 ３月　６日(木)	①フィンガーテスタ開発事業結果報告 ②その他
平成２５年度 第２回 安全衛生企画委員会	平成２６年 ３月　６日(木)	①洗浄性評価研究事業 ②フィンガーテスタ開発研究事業 ③国際規格対応講習会開催結果 ④平成26年度事業計画

会　　議	開　催　日	議　　題　　等
平成２５年度 第３回 ＪＩＳ改正委員会	平成２６年 ３月１７日(月)	①改正製粉機械JISについて ②精米麦機械JIS改正原案について ③水産加工機械JIS改正委員会について

10. 支　　部　　会

会　　議	開　催　日	議　　題　　等
第５回 肉類・水産加工機械部会	平成２５年 １１月１４日(木) ～１５日(金)	見学先：㈱なんつね スーパーサンプラザ
西　部　支　部　会	平成２５年 １１月１９日(火)	会場：帝国ホテル大阪 演題：ソーシャルマーケティングでファンを創る ～SNS・ブログなどコミュニティマーケティングとは？～ 講師：藤崎健一氏(㈱カレン 代表取締役社長)
平成２５年度 技術委員会集中研修会	平成２５年 １１月２６日(火)	見学先：㈱サタケ本社 永岡商事㈱ 東広島工場

11. 研　修　会　等

会　　議	開　催　日	議　　題　　等
国際安全規格対応講習会 安全設計基本概念[東京]	平成２５年 ７月１２日(金)	会場：日本食品機械工業会 ４Ｆ会議室 講師：大村宏之(日食工事務局 事業部部長)
国際安全規格対応講習会 安全設計基本概念[大阪]	平成２５年 ７月１９日(金)	会場：たかつガーデン 講師：大村宏之(日食工事務局 事業部部長)
国際安全規格対応講習会 リスクアセスメント方法論[東京]	平成２５年 ７月２６日(金)	会場：日本食品機械工業会 ４Ｆ会議室 講師：大村宏之(日食工事務局 事業部部長)
国際安全規格対応講習会 リスクアセスメント方法論[大阪]	平成２５年 ８月　２日(金)	会場：たかつガーデン 講師：大村宏之(日食工事務局 事業部部長)
国際安全規格対応講習会 制御盤設計[東京]	平成２５年 ８月２３日(金)	会場：日本食品機械工業会 ４Ｆ会議室 講師：岡村隆一氏(さくらマシナリーコンサルティング 代表)
国際安全規格対応講習会 制御盤設計[大阪]	平成２５年 ８月３０日(金)	会場：たかつガーデン 講師：岡村隆一氏(さくらマシナリーコンサルティング 代表)
UL/IEC 対応制御盤説明会[大阪]	平成２５年 ７月１８日(木)	会場：たかつガーデン 講師：岡村隆一氏(さくらマシナリーコンサルティング 代表)
UL/IEC 対応制御盤説明会[東京]	平成２５年 ７月２３日(火)	会場：ホテルJALシティ田町 講師：岡村隆一氏(さくらマシナリーコンサルティング 代表)

会　　議	開　催　日	議　　題　　等
第７回 機械系技能士コース 基礎学科レベルアップ講座	平成２５年 ８月　５日(日) ～　７日(水)	会場：日本食品機械工業会　４Ｆ会議室 講師：岡部眞幸氏(職業能力開発総合大学校 准教授)
香港Food Expo出展調査	平成２５年 ８月１４日(水) ～１７日(土)	会場：Hong Kong Convention and Exhibition Centre（香港）
国際安全規格講習会 取扱説明書［東京］	平成２５年 ９月　６日(金)	会場：日本食品機械工業会　４Ｆ会議室 講師：大村宏之(日食工事務局 事業部部長) 石井満氏(㈱シーエフメディアジャパン代表取締役社長)
国際安全規格講習会 取扱説明書［大阪］	平成２５年 ９月１３日(金)	会場：たかつガーデン 講師：大村宏之(日食工事務局 事業部部長) 石井満氏(㈱シーエフメディアジャパン代表取締役社長)
青年部・国際委員会合同 ISTANBUL FOOD TECH 2013 見学／トルコ食品事情等視察ミッション	平成２５年 ９月　９日(月) ～１５日(日)	トルコ視察先： ①JETROイスタンブール事務所 ②Nam Et Merkez & Fabrika（食肉加工） ③Istanbul Halk Ekmek（製パン） ④Safak Dondurma（アイスクリーム製造） ⑤Istanbul Food Tech 2013 ⑥市場視察（スーパーマーケット等）
平成２５年度 技術委員会施設見学会	平成２５年 ９月１０日(火)	見学先：㈱原田・ガトーフェスタハラダ 本社工場 赤城乳業㈱ 本庄千本さくら「５Ｓ」工場
粉体工業展大阪2013 出展	平成２５年 １０月　９日(水) ～１１日(金)	会場：インテックス大阪
JAPAN PACK 2013 出展	平成２５年 １０月１５日(火) ～１８日(金)	会場：東京ビッグサイト
Oishii JAPAN 2013 出展および調査	平成２５年 １０月１５日(火) ～２１日(月)	会場：SUNTEC（シンガポール）
時　局　講　演　会	平成２５年 １０月２４日(木)	会場：第一ホテル東京 演題：バランスシート不況からの脱却は可能か 講師：リチャード・クー氏(野村総合研究所 主席研究員 チーフエコノミスト)
2013国際ロボット展 出展	平成２５年 １１月　６日(水) ～　９日(土)	会場：東京ビッグサイト

会　　議	開　催　日	議　　題　　等
FOOMA JAPAN 2013 1Day特別講演会	平成２５年 １１月　８日(金)	会場：グランパーク 演題：食品の美味しさを演出する気泡の不思議 講師：豊田淨彦氏(神戸大学 教授) 演題：美味しさはバランス感覚－米のタンパク質含量とアミロース含量のバランスが食味評価に与える影響－ 講師：川村周三氏(北海道大学 教授) 演題：高アミロース米のダイレクト糊化による食品の高付加価値化 講師：杉山純一氏(食品総合研究所 ユニット長) 演題：殺菌処理工程における単位操作「食品の加熱殺菌処理における原理と操作上の問題」 講師：土戸哲明氏(関西大学 教授) 演題：ジュール加熱を利用した固体および固体様食品の新規加工・殺菌法 講師：酒井昇氏(東京海洋大学 教授)
「食品機械における国内及び韓国の法規制」セミナー[大阪]	平成２５年 １１月１３日(水)	会場：たかつガーデン 演題：国内法制度と規格について－安全設計入門 講師：大村宏之(日食工事務局 事業部部長) 演題：韓国自立安全確認申告制度の解説 講師：穐原眞一郎/五十嵐和宏(テュフラインランドジャパン㈱ シニアセールス) 演題：韓国KGS・輸入ガス用品製造登録制度の解説 講師：松浦理((一財)日本ガス機器検査協会 チームリーダ) 演題：食品機械メーカーにおけるISO22000の適用について 講師：小泉滋((一財)日本ガス機器検査協会 グループマネージャ)
「食品機械における国内及び韓国の法規制」セミナー[東京]	平成２５年 １１月１４日(木)	会場：主婦会館プラザエフ 演題：国内法制度と規格について－安全設計入門 講師：大村宏之(日食工事務局 事業部部長) 演題：韓国自立安全確認申告制度の解説 講師：穐原眞一郎/五十嵐和宏(テュフラインランドジャパン㈱ シニアセールス) 演題：韓国KGS・輸入ガス用品製造登録制度の解説 講師：松浦理((一財)日本ガス機器検査協会 チームリーダ) 演題：食品機械メーカーにおけるISO22000の適用について 講師：小泉滋((一財)日本ガス機器検査協会 グループマネージャ)

会　　議	開　催　日	議　　題　　等
契約に関するトラブル 事例研究会［大阪］	平成２５年 １２月　６日(金)	会場：新大阪丸ビル別館 講師：近藤惠嗣氏(福田･近藤法律事務所 弁護士)
契約に関するトラブル 事例研究会［東京］	平成２５年 １２月１９日(木)	会場：ホテルJALシティ田町 講師：近藤惠嗣氏(福田･近藤法律事務所 弁護士)
国際委員会 第７回海外市場セミナー	平成２５年 １２月１０日(火)	会場：ホテルJALシティ田町 講師：合田賢史氏(ジェトロ 国内コーディネーター、中小企業診断士) 演題：中小一般機械製造業のアジア展開 講師：岩田知統氏(ジェトロ 機械･環境産業部 機械･環境産業企画課長) 演題：ジェトロの主な海外展開支援サービスと支援事例
平成２６年 新春懇話会･新春賀詞交歓会	平成２６年 １月１７日(金)	会場：東京プリンスホテル 講師：中瀬ゆかり氏(㈱新潮社 出版部 部長) 演題：人脈力

平成25年度　日本食品機械工業会組織図

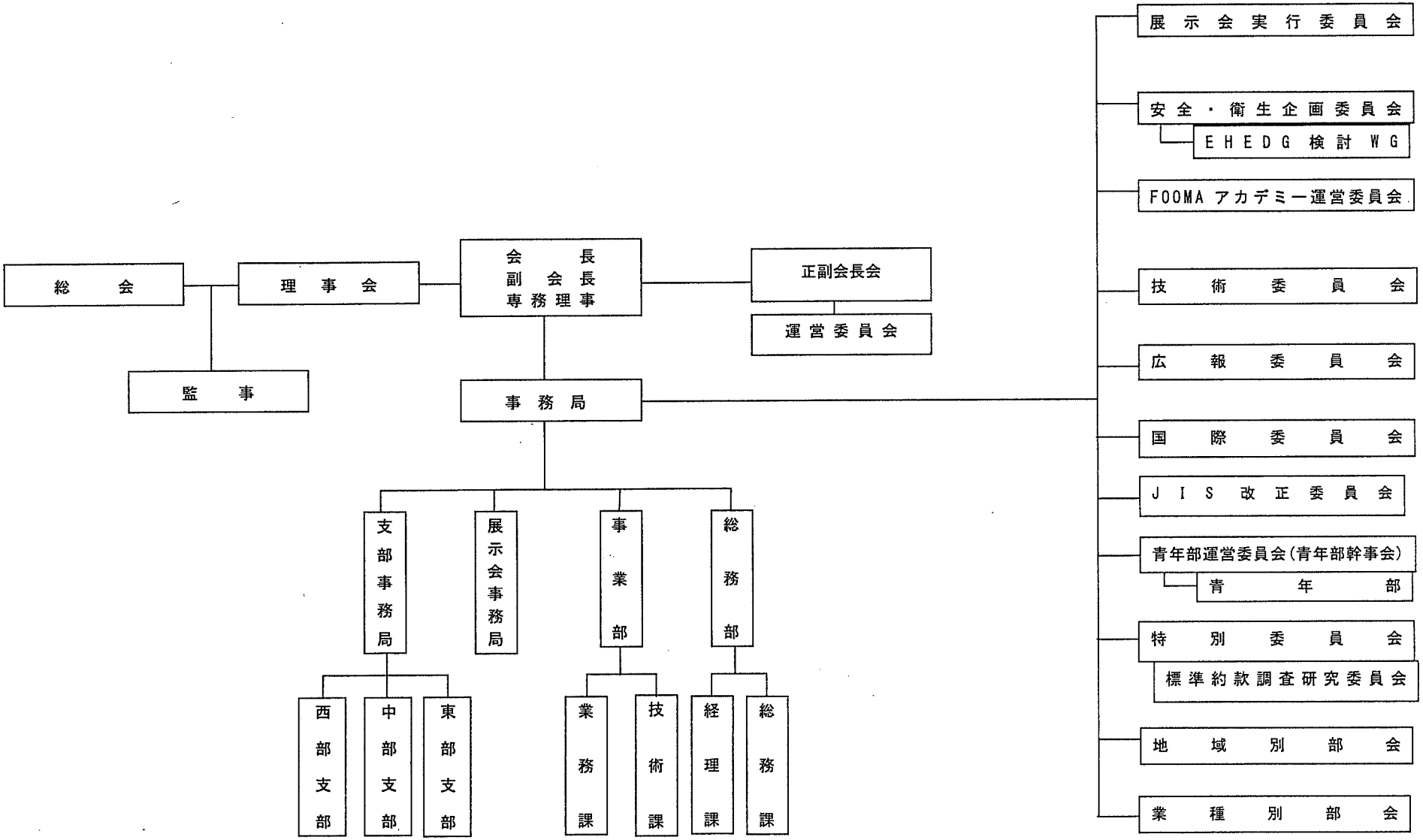

表1.食品機械の国内販売額推移(平成18年～平成25年)

(金額単位:百万円 前年比:%)

	平成18年(2006年)		平成19年(2007年)		平成20年(2008年)		平成21年(2009年)		平成22年(2010年)		平成23年(2011年)		平成24年(2012年)		平成25年(2013年)	
	金 額	前年比	金 額	前年比	金 額	前年比	金 額	前年比	金 額	前年比	金 額	前年比	金 額	前年比	金 額	前年比
精米麦機械	11,803	102.3	12,009	101.7	12,105	100.8	12,285	101.5	14,262	116.1	14,661	102.8	14,368	98.0	14,553	101.3
製粉機械	10,249	95.2	10,659	104.0	9,593	90.0	9,929	103.5	11,299	113.8	11,728	103.8	12,128	103.4	12,331	101.7
製めん機械	12,299	98.7	12,104	98.4	11,054	91.3	9,971	90.2	10,418	104.5	10,543	101.2	10,874	103.1	10,711	98.5
製パン・製菓機械	105,062	102.5	106,292	101.2	106,698	100.4	99,119	92.9	106,157	107.1	108,810	102.5	111,823	102.8	112,834	100.9
醸造用機械	16,855	92.9	17,235	102.3	16,366	95.0	14,148	86.4	15,776	111.5	15,302	97.0	13,824	90.3	13,714	99.2
乳製品加工機械	50,301	104.3	49,842	99.1	50,587	101.5	45,318	89.6	50,201	110.8	50,803	101.2	52,353	103.1	53,464	102.1
飲料加工機械	21,029	98.7	21,616	102.8	21,339	98.7	19,219	90.1	21,148	110.0	21,845	103.3	21,560	98.7	21,972	101.9
肉類加工機械	17,434	103.2	17,395	99.8	17,012	97.8	15,644	92.0	16,919	108.2	17,341	102.5	17,703	102.1	18,113	102.3
水産加工機械	19,165	100.7	18,330	95.6	17,358	94.7	15,638	90.1	15,388	98.4	15,726	102.2	15,972	101.6	16,292	102.0
その他の食品機械	191,837	97.5	191,752	100.0	185,886	96.9	162,253	87.3	175,193	108.0	162,953	93.0	167,963	103.1	168,848	100.5
合計	456,034	99.7	457,234	100.3	447,998	98.0	403,524	90.1	436,761	108.2	429,712	98.4	438,568	102.1	442,832	101.0

【出典】日本食品機械工業会

表2.食品機械の出荷・輸出入推移

(金額単位:百万円 前年比:%)

項目		出荷①		輸出②		輸入③		輸出比率④	輸入依存度⑤
平成	西暦	金　額	前　年　比	金　額	前　年　比	金　額	前　年　比	金　額	金　額
15	2003	294,467	89.1	17,983	121.6	18,377	189.1	6.1	6.2
16	2004	318,792	108.3	20,345	113.1	20,521	111.7	6.4	6.4
17	2005	342,226	107.4	22,118	108.7	21,006	102.4	6.5	6.1
18	2006	319,322	93.3	22,068	99.8	19,683	93.7	6.9	6.2
19	2007	343,705	107.7	25,230	114.3	22,625	114.9	7.3	6.6
20	2008	331,751	96.5	26,077	103.4	22,117	97.8	7.9	6.7
21	2009	286,691	86.4	18,542	71.1	18,623	84.2	6.5	6.5
22	2010	298,651	104.2	28,218	152.2	18,490	99.3	9.5	6.2
23	2011	—	—	30,000	106.3	21,188	114.6	—	—
24	2012	—	—	32,567	108.6	21,236	100.2	—	—
25	2013	—	—	34,335	105.4	27,971	131.7	—	—

【出典】出荷数値:経済産業省「工業統計」
輸出入数値:財務省「通関統計」

表3-1　食品機械の品目別輸出実績推移（平成15年～25年）

（金額単位:百万円 その他:%）

品目		精米麦機械		製粉機械		製めん機械		製パン・製菓機械		醸造用機械		乳製品加工機械		飲料加工機械		肉類加工機械		水産加工機械		その他の食品機械		合計	
平成	西暦	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
15	2003	227	55.4	257	76.2	2,947	136.9	3,563	111.7	54	75.5	0.0	0.0	3,692	2,149.0	390	65.2	991	79.4	5,862	88.6	17,983	121.6
																				337	55.0		
16	2004	360	159.1	244	94.9	3,503	118.8	3,659	102.7	150	277.6	6.8	－	4,326	117.2	400	102.4	1,510	152.4	6,186	105.5	20,345	113.1
																				316	93.8		
17	2005	236	65.5	409	167.8	3,490	99.6	5,061	138.3	277	185.4	0.6	9.1	4,146	95.8	590	147.7	1,058	70.1	6,850	110.7	22,118	108.7
																				588	174.0		
18	2006	390	165.3	243	59.3	2,671	76.5	6,047	119.5	263	95.0	6.0	947.7	3,582	86.4	742	125.6	776	73.3	7,350	107.3	22,068	99.8
																				412	70.1		
19	2007	434	111.3	401	165.1	3,107	116.3	7,620	126.0	364	138.4	0.0	0.0	5,155	143.9	903	121.8	908	117.1	6,337	86.2	25,230	114.3
																				601	145.8		
20	2008	448	103.3	515	128.6	3,912	125.9	7,734	101.5	544	149.4	4.0	0.0	4,660	90.4	694	76.8	827	91.1	6,738	106.3	26,077	103.4
																				411	68.4		
21	2009	200	44.6	163	31.6	2,988	76.4	5,930	76.7	276	50.7	0.0	0.0	3,157	67.7	557	80.3	689	83.3	4,583	68.0	18,542	71.1
																				305	74.0		
22	2010	383	191.4	1,212	744.4	5,200	174.1	7,255	122.4	1,204	436.1	0.0	0.0	3,224	102.1	1,208	216.7	1,113	161.5	7,419	161.9	28,218	152.2
																				328	107.6		
23	2011	230	59.9	383	31.6	6,514	125.3	7,925	109.2	202	16.8	0.0	0.0	4,811	149.2	2,985	247.2	1,140	102.4	5,811	78.3	30,000	106.3
																				375	114.4		
24	2012	281	122.5	469	122.3	6,580	101.0	8,234	103.9	1,261	625.5	32	－	5,233	108.8	3,495	117.1	1,076	94.4	5,905	101.6	32,567	108.6
																				380	101.2		
25	2013	230	81.9	558	119.1	4,594	69.8	10,885	132.2	1,774	140.7	0.0	0.0	4,945	94.5	2,644	75.6	1,916	178.0	6,789	115.0	34,335	105.4
																				525	138.3		

※ 単位未満四捨五入のため、縦計・横計は一致しないことがある

「その他の食品機械」の網掛部分は「果菜類調理機械」の内数表示である

【出典】財務省「通関統計」

表3-2 食品機械の品目別輸入実績推移(平成15年～25年)

(金額単位:百万円 その他:%)

品目		精米麦機械		製粉機械		製めん機械		製パン・製菓機械		醸造用機械		乳製品加工機械		飲料加工機械		肉類加工機械		水産加工機械		その他の食品機械		合計	
平成	西暦	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
15	2003	－	－	279	－	－	－	4,202	131.6	69	246.3	564	78.7	7,751	2,286.0	2,770	110.1	－	－	2,743	93.8	18,377	189.1
																				245	82.3		
16	2004	－	－	387	138.7	－	－	4,762	113.3	24	34.8	842	149.4	9,129	117.8	2,318	83.7	－	－	3,058	111.5	20,521	111.7
																				292	119.0		
17	2005	－	－	1,161	300.3	－	－	3,828	80.4	64	268.6	879	101.4	9,255	101.0	2,789	120.3	－	－	3,059	100.0	21,006	102.4
																				213	72.9		
18	2006	－	－	444	38.3	－	－	3,247	84.8	43	66.6	949	107.9	9,708	105.2	2,702	96.9	－	－	2,590	84.7	19,683	93.7
																				151	70.8		
19	2007	－	－	626	140.9	－	－	5,002	154.0	198	463.0	855	90.1	10,637	109.6	2,503	92.6	－	－	2,808	108.3	22,625	114.9
																				703	465.5		
20	2008	－	－	443	70.9	－	－	4,820	96.4	2.0	1.2	956	111.7	11,406	107.2	1,947	77.8	－	－	2,543	90.7	22,117	97.8
																				242	6.0		
21	2009	－	－	424	95.5	－	－	5,171	107.3	83	3,604.3	649	67.9	7,708	67.6	2,336	120.0	－	－	2,251	88.5	18,623	84.2
																				369	152.3		
22	2010	－	－	529	124.9	－	－	5,020	97.1	11.0	13.6	871	134.2	7,788	101.0	2,428	103.9	－	－	1,842	81.8	18,490	99.3
																				154	41.8		
23	2011	－	－	1,056	199.6	－	－	5,992	119.4	54	476.7	1,215	139.5	8,210	105.4	2,197	90.5	－	－	2,464	133.7	21,188	114.6
																				283	183.3		
24	2012	－	－	554	52.4	－	－	3,814	63.7	2.0	2.2	1,278	105.1	10,532	128.9	2,217	100.9	－	－	2,841	115.3	21,236	100.2
																				231	81.6		
25	2013	－	－	1,114	201.2	－	－	4,474	117.3	127	10,672.2	1,361	106.5	14,477	137.5	3,488	157.3	－	－	2,930	103.2	27,971	131.7
																				218	94.4		

※ 単位未満四捨五入のため、縦計・横計は一致しないことがある

「その他の食品機械」の網掛部分は「果菜類調理機械」の内数表示である

【出典】財務省「通関統計」

表4　食品機械の地域別輸出入実績推移（平成15年～25年）

① 輸出

（金額単位:百万円 構成比:%）

地域		アジア		中近東		西欧		ロシア・東欧		北米		中南米		アフリカ		大洋州		合計	
平成	西暦	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
15	2003	12,415	69.0	213	1.2	1,604	8.9	157	0.9	2,948	16.4	282	1.6	58	0.3	306	1.7	17,983	100.0
16	2004	14,841	73.0	365	1.8	1,675	8.2	367	1.8	2,317	11.4	335	1.6	46	0.2	398	2.0	20,345	100.0
17	2005	16,120	72.9	97	0.4	1,717	7.8	494	2.2	2,944	13.3	181	0.8	209	0.9	356	1.6	22,118	100.0
18	2006	15,170	68.7	350	1.6	2,283	10.3	240	1.1	3,076	13.9	227	1.0	276	1.2	447	2.0	22,068	100.0
19	2007	16,617	65.9	363	1.4	2,948	11.7	346	1.4	4,189	16.6	202	0.8	124	0.5	440	1.7	25,230	100.0
20	2008	18,363	70.4	263	1.0	3,284	12.6	702	2.7	2,498	9.6	285	1.1	142	0.5	540	2.1	26,077	100.0
21	2009	12,400	66.9	1,063	5.7	1,927	10.4	261	1.4	2,213	11.9	331	1.8	88	0.5	259	1.4	18,542	100.0
22	2010	21,782	77.2	550	1.9	1,823	6.5	692	2.5	2,124	7.5	653	2.3	201	0.7	393	1.4	28,218	100.0
23	2011	21,673	72.2	490	1.6	2,305	7.7	711	2.4	1,777	5.9	2,122	7.1	654	2.2	269	0.9	30,000	100.0
24	2012	24,671	75.8	149	0.5	1,742	5.3	544	1.7	2,874	8.8	1,704	5.2	461	1.4	422	1.3	32,567	100.0
25	2013	26,135	76.1	546	1.6	1,568	4.6	786	2.3	3,439	10.0	1,002	2.9	342	1.0	518	1.5	34,335	100.0

※ 単位未満四捨五入のため、縦計・横計は一致しないことがある

【出典】財務省「通関統計」

② 輸入

（金額単位:百万円 構成比:%）

地域		アジア		中近東		西欧		ロシア・東欧		北米		中南米		アフリカ		大洋州		合計	
平成	西暦	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比
15	2003	1,138	6.2	7.0	0.0	14,206	77.3	9.0	0.0	2,528	13.8	11	0.1	0.0	－	478	2.6	18,377	100.0
16	2004	1,390	6.8	1.0	0.0	15,732	76.7	3.0	0.0	3,064	14.9	32	0.2	0.0	－	299	1.5	20,521	100.0
17	2005	2,264	10.8	0.0	－	17,759	75.0	2.0	0.0	2,406	11.5	21	0.1	1.0	0.0	553	2.6	21,006	100.0
18	2006	2,130	10.8	4.0	0.0	14,001	71.1	0.0	－	3,129	15.9	20	0.1	6.0	0.0	394	2.0	19,683	100.0
19	2007	2,231	9.9	11	0.0	16,226	71.7	397	1.8	3,545	15.7	40	0.2	1.0	0.0	173	0.8	22,625	100.0
20	2008	2,416	10.9	1.0	0.0	13,898	62.8	79	0.4	5,666	25.6	21	0.1	2.0	0.0	35	0.2	22,117	100.0
21	2009	2,213	11.9	27	0.1	12,664	68.0	31	0.2	3,413	18.3	8.0	0.0	5.0	0.0	261	1.4	18,623	100.0
22	2010	2,485	13.4	0.0	0.0	13,105	70.9	101	0.5	2,316	12.5	186	1.0	2.0	0.0	295	1.6	18,490	100.0
23	2011	2,585	12.2	0.0	0.0	15,373	72.6	93	0.4	3,058	14.4	4.0	0.0	1.0	0.0	74	0.3	21,188	100.0
24	2012	3,055	14.4	10	0.0	14,771	69.6	114	0.5	2,698	12.7	5.0	0.0	3.0	0.0	579	2.7	21,236	100.0
25	2013	3,626	13.0	0.0	0.0	20,685	73.9	234	0.8	3,311	11.8	13	0.0	4.0	0.0	100	0.4	27,971	100.0

※ 単位未満四捨五入のため、縦計・横計は一致しないことがある

【出典】財務省「通関統計」

表5　食品機械の品目・地域別輸出入実績(平成25年)

① 輸出

(金額単位:百万円 その他:%)

	アジア		中近東		西欧		ロシア・東欧		北米		中南米		アフリカ		大洋州		合計		
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	構成比
精米麦機械	194	142.8	0	−	4	424.9	0	−	26	18.6	4	125.7	1	12.0	2	0.0	230	81.9	0.7%
製粉機械	554	140.5	0	−	2	2.8	0	−	1	42.1	1	70.2	1	4.3	1	22.2	558	119.1	1.6%
製めん機械	3,172	60.1	27	94.1	24	29.7	50	216.2	1,117	136.2	43	19.8	65	66.7	96	287.0	4,594	69.8	13.4%
製パン・製菓機械	8,887	135.1	377	437.8	776	94.8	5	77.5	567	159.6	0	0.0	240	82.5	33	187.6	10,885	132.2	31.7%
醸造用機械	1,675	143.9	0	−	0	−	0	−	99	1,830.6	0	0.0	0	−	0	−	1,774	140.7	5.2%
乳製品加工機械	0	0.0	0	−	0	−	0	−	0	−	0	−	0	−	0	−	0	0.0	0.0%
飲料加工機械	4,151	90.5	27	95.1	64	49.7	56	809.9	508	122.7	62	482.2	23	130.8	53	142.2	4,945	94.5	14.4%
肉類加工機械	1,506	84.4	13	0.0	192	76.5	23	265.7	64	41.3	821	63.7	5	0.0	20	239.4	2,644	75.6	7.7%
水産加工機械	1,199	230.4	0	0.0	16	397.0	625	128.9	51	225.3	0	0.0	0	0.0	24	337.2	1,916	178.0	5.6%
その他の食品機械	4,796	114.3	102	3,425.2	490	124.4	28	189.0	1,006	104.7	70	1,144.8	8	59.8	290	91.5	6,789	115.0	19.8%
合計	26,135	105.9	546	366.9	1,568	90.0	786	144.4	3,439	119.7	1,002	58.8	343	74.1	518	122.9	34,335	105.4	100.0

※ 単位未満四捨五入のため、縦計・横計は一致しないことがある
　−は前年と比較不可

【出典】財務省「通関統計」

② 輸入

(金額単位:百万円 その他:%)

	アジア		中近東		西欧		ロシア・東欧		北米		中南米		アフリカ		大洋州		合計		
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	構成比
精米麦機械	0	−	0	−	0	−	0	−	0	−	0	−	0	−	0	−	0	−	0.0%
製粉機械	216	70.4	0	−	891	378.8	0	−	3	27.9	3	0.0	0	−	1	0.0	1,114	201.2	4.0%
製めん機械	0	−	0	−	0	−	0	−	0	−	0	−	0	−	0	−	0	−	0.0%
製パン・製菓機械	463	163.8	0	0.0	3,620	118.3	8	0.0	381	82.9	3	0.0	0	−	0	0.0	4,474	117.3	16.0%
醸造用機械	36	3,021.6	0	−	91	0.0	0	−	0	−	0	−	0	−	0	−	127	10,672.7	0.5%
乳製品加工機械	293	115.7	0	−	537	122.7	0	−	531	90.6	0	−	0	−	0	0.0	1,361	106.5	4.9%
飲料加工機械	1,131	97.3	0	−	11,691	143.5	2	7.2	1,623	137.4	5	90.6	4	119.7	22	226.7	14,477	137.5	51.8%
肉類加工機械	697	120.0	0	−	2,305	155.6	105	195.2	381	378.4	0	−	0	−	0	−	3,488	15.3	12.5%
水産加工機械	0	−	0	−	0	−	0	−	0	−	0	−	0	−	0	−	0	−	0.0%
その他の食品機械	790	169.0	0	−	1,551	109.9	119	318.5	392	109.2	2	0.0	0	−	76	13.5	2,930	103.2	10.5%
合計	3,626	118.7	0	0.0	20,685	140.0	234	204.2	3,311	122.7	13	236.0	4	119.7	100	17.2	27,971	131.7	100.0

※ 単位未満四捨五入のため、縦計・横計は一致しないことがある
　−は前年と比較不可

【出典】財務省「通関統計」

表6-1　食品機械の品目・貿易相手先上位5カ国別輸出実績(平成25年)

(金額単位:百万円 その他:%)

精米麦機械				製粉機械				製めん機械				製パン・製菓機械			
国名	金額	前年比	構成比	国名	金額	前年比	構成比	国名	金額	前年比	構成比	国名	金額	前年比	構成比
韓国	62	113.2	26.9	フィリピン	246	24,616.9	44.1	中国	1,907	53.2	41.5	インドネシア	2,686	475.6	24.7
中国	59	226.6	25.7	韓国	98	32.6	17.5	アメリカ	1,070	146.5	23.3	中国	2,397	182.8	22.0
台湾	26	109.5	11.4	中国	84	151.4	15.1	韓国	424	238.4	9.2	タイ	1,291	70.0	11.9
アメリカ	26	18.9	11.1	タイ	59	461.8	10.6	インド	220	197.7	4.8	台湾	805	68.5	7.4
シンガポール	22	3,986.3	9.5	香港	5	146.1	0.9	タイ	171	26.1	3.7	オランダ	602	89.9	5.5
5カ国	195	80.8	84.6	5カ国	492	132.1	88.1	5カ国	3,791	72.1	82.5	5カ国	7,781	139.8	71.5
総計	230	81.9	100.0	総計	558	119.1	100.0	総計	4,594	69.8	100.0	総計	10,885	132.2	100.0

醸造用機械				乳製品加工機械				飲料加工機械				肉類加工機械			
国名	金額	前年比	構成比	国名	金額	前年比	構成比	国名	金額	前年比	構成比	国名	金額	前年比	構成比
中国	1,315	113.0	74.1					中国	975	155.5	19.7	中国	1,148	95.3	43.4
韓国	360	0.0	20.3					タイ	914	96.1	18.5	ブラジル	771	62.0	29.2
アメリカ	99	1,830.6	5.6					台湾	636	121.6	12.9	ベルギー	185	82.7	7.0
シンガポール	1	0.0	0.0					アメリカ	491	123.8	9.9	韓国	126	139.4	4.8
								韓国	472	30.8	9.5	タイ	126	40.2	4.8
4カ国	1,774	140.7	100.0					5カ国	3,488	86.6	70.5	5カ国	2,355	76.6	89.1
総計	1,774	140.7	100.0	総計	0	0.0	100.0	総計	4,945	94.5	100.0	総計	2,644	75.6	100.0

水産加工機械				果菜類調理機械				その他の食品機械				合計			
国名	金額	前年比	構成比	国名	金額	前年比	構成比	国名	金額	前年比	構成比	国名	金額	前年比	構成比
ロシア	625	129.8	32.7	中国	177	120.2	33.6	韓国	1,317	136.9	19.4	中国	9,378	99.0	27.3
タイ	292	322.0	15.2	韓国	83	115.7	15.8	中国	1,256	93.3	18.5	韓国	3,710	84.4	10.8
韓国	251	159.6	13.1	アメリカ	49	113.6	9.3	アメリカ	971	108.0	14.3	インドネシア	3,595	211.9	10.5
中国	238	196.9	12.4	タイ	44	93.9	8.5	タイ	507	156.6	7.5	タイ	3,360	80.2	9.8
マレーシア	90	354.3	4.7	台湾	41	224.7	7.8	インドネシア	399	120.7	5.9	アメリカ	3,334	123.6	9.7
5カ国	1,496	170.8	78.1	5カ国	394	120.4	75.1	5カ国	4,450	115.2	65.5	5カ国	23,378	104.1	68.1
総計	1,916	178.0	100.0	総計	525	138.3	100.0	総計	6,789	115.0	100.0	総計	34,335	105.4	100.0

※ 単位未満四捨五入のため、総計は一致しないことがある。果菜類調理機械は現行の統計分類では「その他の食品機械」に含まれている。　【出典】財務省「通関統計」

表6-2 食品機械の品目・貿易相手先上位5カ国別輸入実績(平成25年)

(金額単位:百万円 その他:%)

精米麦機械				製粉機械				製めん機械				製パン・製菓機械			
国名	金額	前年比	構成比	国名	金額	前年比	構成比	国名	金額	前年比	構成比	国名	金額	前年比	構成比
	－	－	－	スイス	725	389.4	65.1		－	－	－	ドイツ	1,663	128.0	37.2
	－	－	－	中国	148	74.7	13.3		－	－	－	イタリア	656	109.3	14.7
	－	－	－	ドイツ	89	311.9	8.0		－	－	－	スイス	429	89.5	9.6
	－	－	－	台湾	29	214.1	2.5		－	－	－	アメリカ	301	73.2	6.7
	－	－	－	イギリス	22	7,156.5	2.0		－	－	－	中国	260	217.4	5.8
5カ国	－	－	－	5カ国	1,013	237.6	90.9	5カ国	－	－	－	5カ国	3,308	113.7	73.9
総計	0	－	100.0	総計	1,114	201.2	100.0	総計	0	－	100.0	総計	4,474	117.3	100.0

醸造用機械				乳製品加工機械				飲料加工機械				肉類加工機械			
国名	金額	前年比	構成比	国名	金額	前年比	構成比	国名	金額	前年比	構成比	国名	金額	前年比	構成比
ドイツ	91	0.0	71.7	イタリア	450	133.9	33.0	イタリア	5,328	212.1	36.8	ドイツ	1,008	143.7	28.9
中国	30	2,508.7	23.5	アメリカ	364	71.2	26.7	ドイツ	4,615	131.6	31.9	オランダ	501	157.3	14.4
ベトナム	6	0.0	4.8	カナダ	168	222.9	12.3	スイス	1,323	95.9	9.1	中国	434	139.6	12.5
				中国	138	179.1	10.1	アメリカ	1,229	119.1	8.5	アメリカ	326	323.7	9.3
				韓国	128	110.9	9.4	中国	743	88.4	5.1	デンマーク	212	102.6	6.1
3カ国	127	10,672.7	100.0	5カ国	1,246	111.9	91.6	5カ国	13,237	142.8	91.4	5カ国	2,481	151.4	71.1
総計	127	10,672.7	100.0	総計	1,361	106.5	100.0	総計	14,477	137.5	100.0	総計	3,488	157.3	100.0

水産加工機械				果菜類調理機械				その他の食品機械				合計			
国名	金額	前年比	構成比	国名	金額	前年比	構成比	国名	金額	前年比	構成比	国名	金額	前年比	構成比
	－	－	－	オランダ	55	133.6	25.1	アメリカ	392	110.0	13.4	ドイツ	7,834	135.2	28.0
	－	－	－	中国	46	205.6	21.1	フランス	391	98.1	13.3	イタリア	6,582	184.2	23.5
	－	－	－	アメリカ	39	91.4	18.0	中国	355	142.6	12.1	スイス	2,751	125.5	9.8
	－	－	－	韓国	22	70.6	10.3	ドイツ	350	137.8	12.0	アメリカ	2,615	107.9	9.4
	－	－	－	スイス	11	83.2	4.8	韓国	283	170.5	9.7	中国	2,109	117.4	7.5
5カ国	－	－	－	5カ国	173	114.8	79.3	5カ国	1,772	124.4	60.5	5カ国	21,890	138.7	78.3
総計	0	－	100.0	総計	218	94.4	100.0	総計	2,930	103.2	100.0	総計	27,971	131.7	100.0

※ 単位未満四捨五入のため、総計は一致しないことがある。果菜類調理機械は現行の統計分類では「その他の食品機械」に含まれている。 【出典】財務省「通関統計」